

下妻市
男女共同参画に関する市民意識調査

アンケート調査結果報告書

平成 28 年 12 月

市長公室 市民協働課 男女共同参画係

<目次>

調査の概要	1
(1) 調査の目的.....	1
(2) 調査方法.....	1
(3) 実施時期.....	1
(4) 回収状況.....	1
調査結果の概要	2
1. 属性について.....	2
2. 男女の平等について.....	2
3. 家庭生活について.....	2
4. ワーク・ライフ・バランスについて.....	2
5. 就業関係について.....	3
6. 学校教育について.....	3
7. 男女の人権について.....	3
8. 男女共同参画社会について.....	3
アンケート調査結果	4
はじめに、あなたご自身のことについておたずねします。	4
男女の平等全般についておたずねします。	7
家庭生活についておたずねします。	9
ワーク・ライフ・バランスについておたずねします。	12
就業関係についておたずねします。	17
学校教育についておたずねします。	22
男女の人権についておたずねします。	23
男女共同参画社会についておたずねします。	32
男女共同参画社会の実現に向けてのご意見・ご要望等（自由記述）	35

調査の概要

(1) 調査の目的

平成 24 年に策定した「第 2 次下妻市男女共同参画推進プラン」に続く次期計画の策定にあたり、市民のみなさまのご意見をお聞かせいただき、現状と課題を把握して、今後の計画策定の基礎資料とすることを目的として行われた調査です。

(2) 調査方法

18 歳以上の市民 1,500 人を無作為に抽出し、アンケート調査票を郵送配布、無記名にて郵送回収しました。

(3) 実施時期

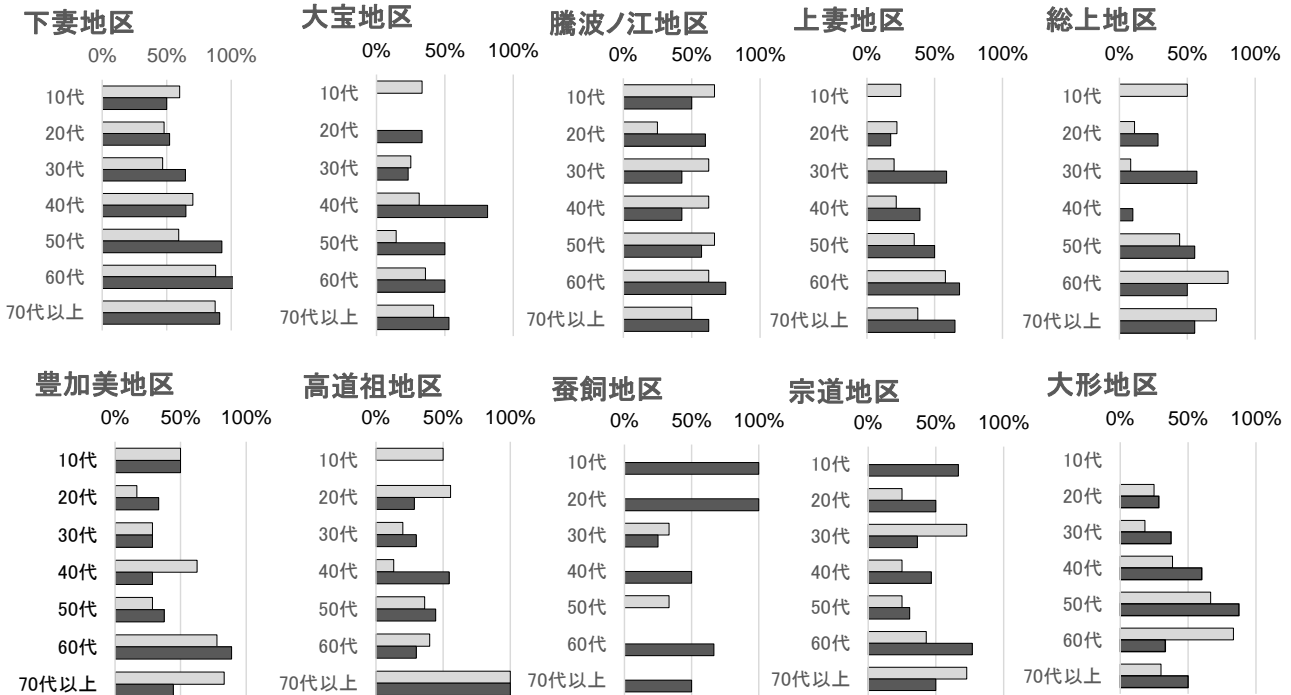
平成 28 年 10 月 1 日～10 月 21 日

(4) 回収状況

対象	配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回収率
市民	1,500	758	50.5%	758	50.5%

【地区別・年代別の回収状況】

■ 男性 ■ 女性



地区名	下妻		大宝		騰波ノ江		上妻		総上		豊加美		高道祖		蚕飼		宗道		大形		
回収率	72.7%		37.4%		57.5%		40.0%		36.0%		48.4%		43.1%		27.3%		45.1%		44.9%		
年代	配布	回収	配布	回収	配布	回収	配布	回収	配布	回収	配布	回収	配布	回収	配布	回収	配布	回収	配布	回収	
10代	11	6	6	1	5	3	8	1	5	1	4	2	4	1	2	1	7	2	2	5	0
20代	48	24	19	3	9	4	35	7	16	3	12	3	16	7	3	1	16	6	15	4	
30代	63	36	29	7	15	8	37	14	19	5	14	4	20	5	7	2	22	12	19	5	
40代	74	50	32	18	15	8	46	14	22	1	15	7	26	8	6	1	31	11	23	11	
50代	55	43	28	9	13	8	40	17	18	9	15	5	20	8	6	1	25	7	17	13	
60代	50	50	28	12	16	11	38	24	18	12	18	15	20	7	6	2	27	16	24	14	
70代以上	58	52	29	14	14	8	36	19	16	10	15	9	17	17	3	1	25	15	24	10	
合計	359	261	171	64	87	50	240	96	114	41	93	45	123	53	33	9	153	69	127	57	

(5) 報告書を見る際の注意事項

- 調査結果の比率は、その設問の回答者数に対する比率を少数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点第1位までを表示しています。したがって、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- 複数回答形式の設問については、その設問の回答者数に対する比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計は100%を超えることがあります。
- 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。

調査結果の概要

1. 属性について

男女比は男性が43.5%、女性が54.6%と女性の方が上回っています。また、年代では、60歳代が最も多くなっています。

世帯の分類では、「親と子からなる世帯」が最も多く、46.8%と半数の方が回答しています。続いて「3世代世帯（親と子と孫）」「夫婦のみの世帯」という結果でした。住んでいる地区では、「下妻」が最も多く、居住年数は、「30年以上」が最も多い回答でした。

2. 男女の平等について

男女の地位の平等については、「男性の方が優遇されている」が最も多かった項目は「政治の場」で33.1%でした。「女性の方が優遇されている」では、「余暇の機会」が6.7%で最も多い回答となっています。また、「平等である」は「学校教育の場」が53.0%で最も多い回答でした。今後、男女が平等になるために何が重要かでは、「職場の理解と協力」が51.6%と最も多く、次いで「男性が家事・育児により積極的に参加すること」が48.5%となっています。

3. 家庭生活について

「男性は仕事、女性は家事」という考え方については、「同感しない」が32.7%で最も多く、「どちらかといえば同感しない」と合わせると50%以上の方が同感しないと回答しています。夫婦の役割分担については、「夫婦がともに職業をもち、家事・育児は平等に分担する」が60.4%と最も多い回答となっています。

4. ワーク・ライフ・バランスについて

ワーク・ライフ・バランスの希望で最も多い回答は、「仕事」と「家庭生活」を優先したいで、30.7%となっています。また、「家庭生活」を優先したいは2番目に多い回答で19.3%でした。この希望に対し、現実（現状）に近いものとして、「仕事」と「家庭生活」を優先している」と回答した方は21.0%に留まり、また、「家庭生活」を優先している」との回答は21.6%で、希望との差に近い結果でした。現実（現状）で最も多かった回答は、「仕事」を優先している」で29.2%でした。男性が育児休業や介護休業を取得することについては、育児休業・介護休業ともに「積極的に取得した方がよい」と「どちらかといえば取得した方がよい」と合わせて7割以上の方が「取得した方がよい」と回答しています。

5. 就業関係について

職業で最も多いのは「勤め人（正規の社員・職員）」で 29.6%となっています。

仕事の考え方では、「女性は出産や子育てで一時的に仕事を辞めても、その時期が過ぎたら、再び仕事を持つ方が良い」が 64.5%と最も多い回答となっています。

職場で平等ではないと思うものは、「賃金、昇進、昇格」が 35.2%と最も多くなっています。続いて「仕事に対する責任の求められ方」、「能力の評価」という結果でした。

仕事と家庭生活を両立させる上での悩みとして多かった回答は、「仕事の負担が大きく体力的、精神的に大変である」が 35.2%、「家事を十分に行う時間がない」が 30.7%となっています。

6. 学校教育について

学校教育（小・中学校）のなかで男女平等を進めるために力を入れるべき取り組みでは、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるように配慮する」と「男女平等の意識を育てる授業をする」が最も多く、ともに 50%以上の回答率となっています。

7. 男女の人権について

女性の人権が尊重されていないと感じるものは、「DV（配偶者・恋人等からの暴力）」が最も多く 44.2%、次いで「職場におけるセクシャル・ハラスメント（性的いやがらせ）」が 41.2%となっています。

暴力的な行為については、11.1%の方が「受けたことがある」と回答しており、受けたことのあるもので最も多かった回答は、「大声でどなられたり、暴言をはかれる」で 65.5%でした。

また、そのような行為を誰かに相談したかでは、「相談した」が 51.2%となっており、そのうちの 6割以上の方が「家族」や「友人・知人」に相談したと回答しています。

「相談しなかった」と回答した方のうち、54.1%の方が「相談しても無駄だと思ったから」と回答し、次いで 48.6%の方が、「自分さえ我慢すればよいと思ったから」と回答しています。

セクシャル・ハラスメントを受けた経験については、8.0%の方が「ある」と回答し、内容については、職場で「不必要に体をさわられた」が 36.1%と最も多い回答でした。学校で受けたことがあるものについては、「女のくせに」、「男のくせに」と差別的な言い方をされた」が 13.1%で最も多く、この項目は、地域活動で受けたものでも 11.5%と最も多い回答となっています。

セクシャル・ハラスメントを受けてどうしたかについては、49.2%の方が「我慢した」と回答しており、我慢した理由は、「人間関係が悪くなると困ると思った」が 43.3%で最も多く、続いて「相手が上司や先生だから」と「相談するほどのことではないと思った」が同じ 33.3%という結果でした。

8. 男女共同参画社会について

男女共同参画に関する言葉は、「DV（配偶者・恋人等からの暴力）」が 72.7%の方、「男女雇用機会均等法」が 65.3%の方、「育児・介護休業法」は 54.1%の方が、それぞれ見たり聞いたりしたことがあると回答しています。

女性の参画を進める必要があると思うものは、「国や地方の議員」が 55.0%と最も多く、「町内会などの自治会役員」と「企業の管理職」が同じ割合で 31.0%という回答でした。

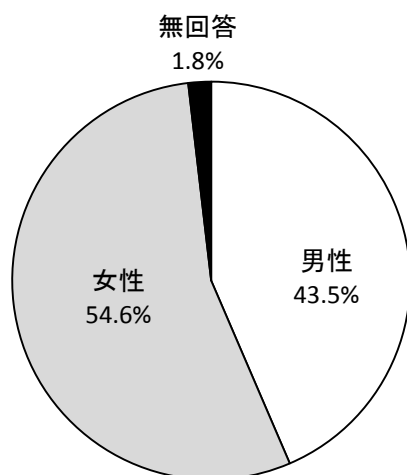
また、下妻市が力をいれていくべきもので多かった回答は、多い順から「子育て環境・介護サービスを充実させる（仕事と生活の両立）」、「男女が共に働きやすい職場環境になるように支援する」、「女性が生活する上での不利な慣習を見直す」という結果でした。

アンケート調査結果

はじめに、あなたご自身のことについておたずねします。

F1 あなたの性別はどちらですか。

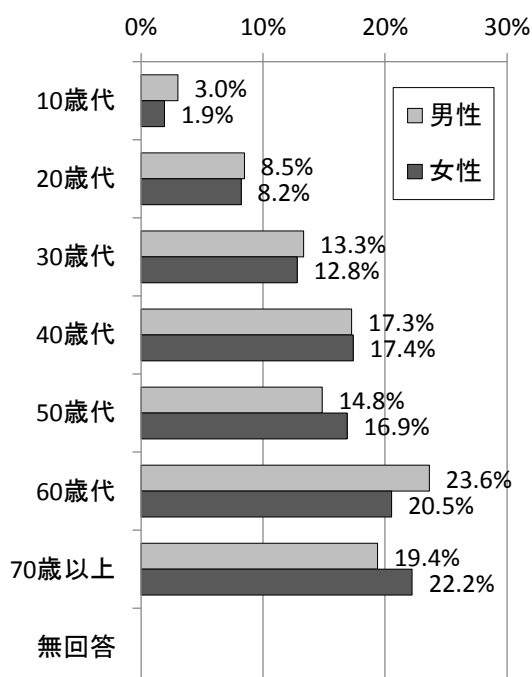
「男性」が43.5%、「女性」が54.6%と女性の割合が高くなっています。



項目	票数	構成比
男性	330	43.5%
女性	414	54.6%
無回答	14	1.8%
合計	758	100.0%

F2 あなたは何歳代ですか。

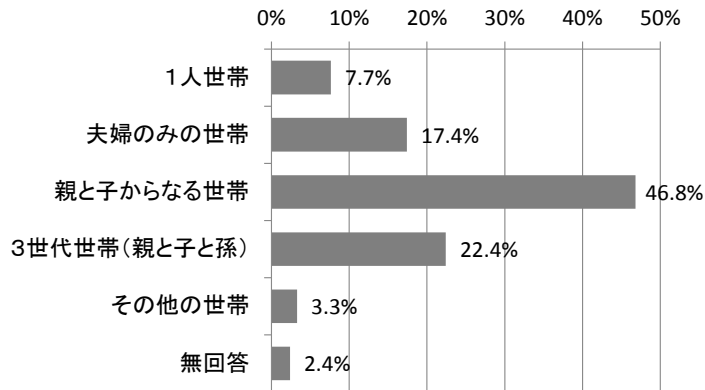
「60歳代」が21.6%と最も高く、次いで「70歳代」が20.6%、「40歳代」が17.0%となっています。男女別でみると、「男性」は「60歳代」が最も高く、女性は「70歳代」が最も高いという結果でした。



項目	全体		男性		女性	
	票数	構成比	票数	構成比	票数	構成比
10歳代	18	2.4%	10	3.0%	8	1.9%
20歳代	62	8.2%	28	8.5%	34	8.2%
30歳代	98	12.9%	44	13.3%	53	12.8%
40歳代	129	17.0%	57	17.3%	72	17.4%
50歳代	120	15.8%	49	14.8%	70	16.9%
60歳代	164	21.6%	78	23.6%	85	20.5%
70歳以上	156	20.6%	64	19.4%	92	22.2%
無回答	11	1.5%				
合計	758	100.0%	330	100.0%	414	100.0%

F 3 あなたの世帯は、次のように分類した場合どれにあたりますか。

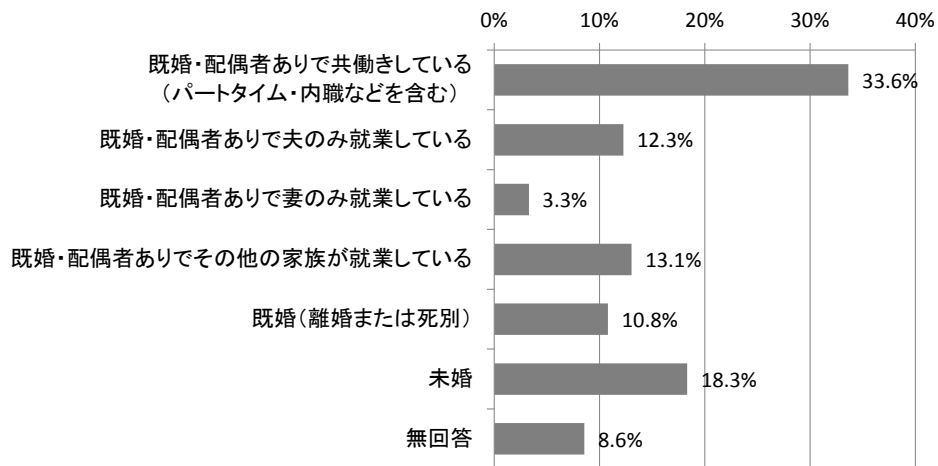
「親と子からなる世帯」が46.8%と最も高く、次いで「3世代世帯（親と子と孫）」が22.4%、「夫婦のみの世帯」が17.4%となっています。



項目	票数	構成比
1人世帯	58	7.7%
夫婦のみの世帯	132	17.4%
親と子からなる世帯	355	46.8%
3世代世帯（親と子と孫）	170	22.4%
その他の世帯	25	3.3%
無回答	18	2.4%
合計	758	100.0%

F 4 あなたは結婚していらっしゃいますか。結婚していらっしゃる場合、家族のどなたが働いていますか。

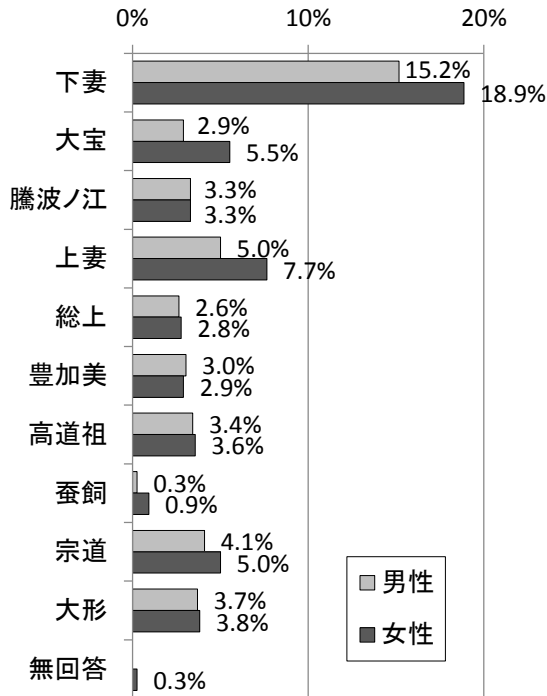
「既婚」が全体の73.1%という結果でした。また、家族の就業形態は、「共働き（パートタイム・内職などを含む）」が33.6%と最も高くなっています。



項目	票数	構成比
既婚・配偶者ありで共働きしている (パートタイム・内職などを含む)	255	33.6%
既婚・配偶者ありで夫のみ就業している	93	12.3%
既婚・配偶者ありで妻のみ就業している	25	3.3%
既婚・配偶者ありでその他の家族が就業している	99	13.1%
既婚(離婚または死別)	82	10.8%
未婚	139	18.3%
無回答	65	8.6%
合計	758	100.0%

F 5 あなたがお住まいの地区はどこですか。

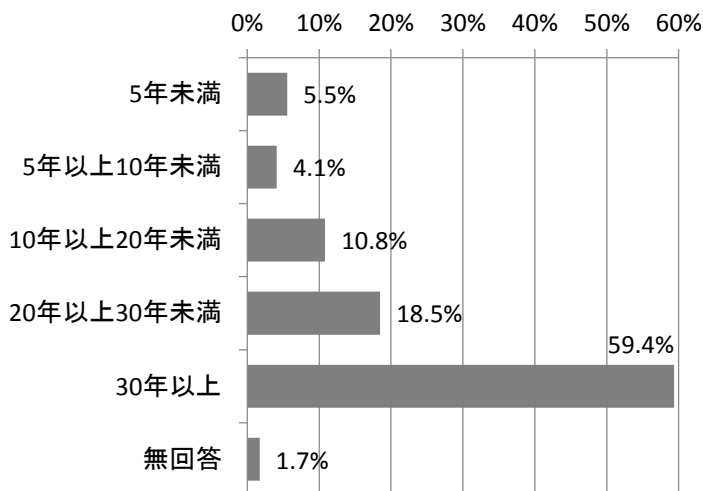
「下妻」が34.4%と最も高く、「上妻」12.7%、「宗道」9.1%、「大宝」8.4%と続いています。男女別では、「豊加美」以外全ての地区で、「男性」より「女性」の回答率が高くなっています。



項目	全体		男性		女性	
	票数	構成比	票数	構成比	票数	構成比
下妻	261	34.4%	115	15.2%	143	18.9%
大宝	64	8.4%	22	2.9%	42	5.5%
騰波ノ江	50	6.6%	25	3.3%	25	3.3%
上妻	96	12.7%	38	5.0%	58	7.7%
総上	41	5.4%	20	2.6%	21	2.8%
豊加美	45	5.9%	23	3.0%	22	2.9%
高道祖	53	7.0%	26	3.4%	27	3.6%
蚕飼	9	1.2%	2	0.3%	7	0.9%
宗道	69	9.1%	31	4.1%	38	5.0%
大形	57	7.5%	28	3.7%	29	3.8%
無回答	13	1.7%	0	0.0%	2	0.3%
合計	758	100.0%	330	43.5%	414	54.6%

F 6 あなたは下妻に住むようになって何年になりますか。

「30年以上」が59.4%と最も高く、「20年以上30年未満」と「10年以上20年未満」を合わせると、88.7%の方が10年以上、下妻に住んでいると回答しています。

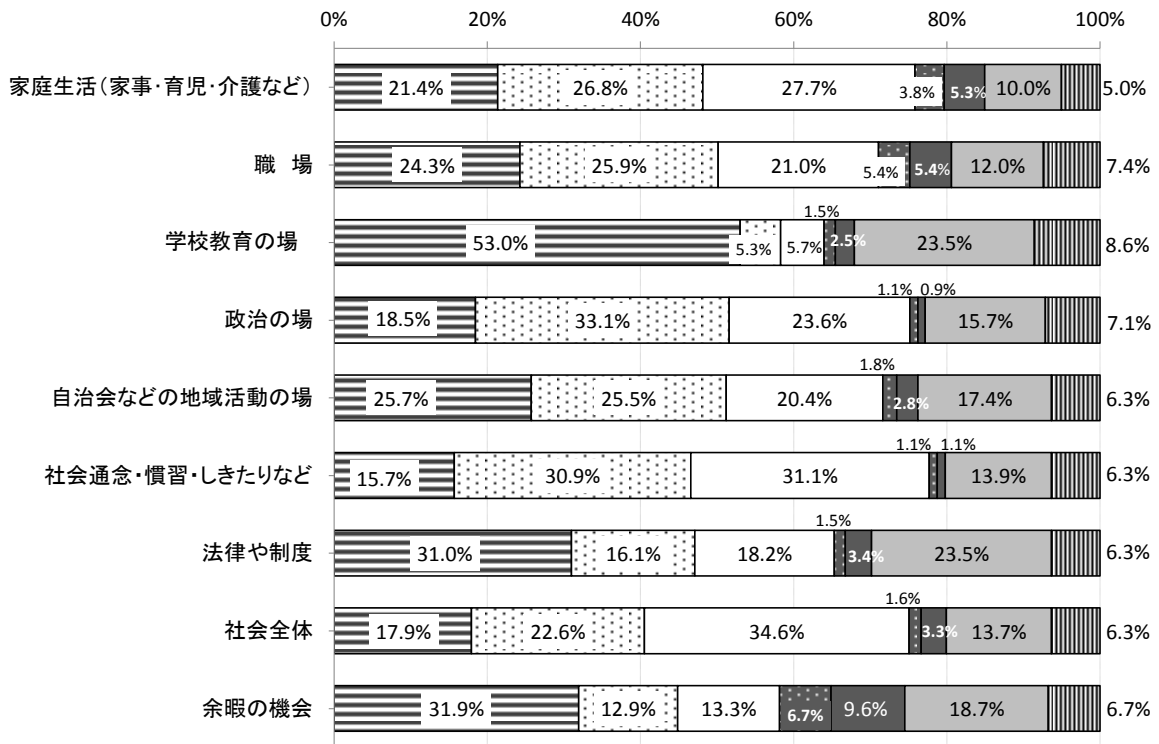


項目	票数	構成比
5年未満	42	5.5%
5年以上10年未満	31	4.1%
10年以上20年未満	82	10.8%
20年以上30年未満	140	18.5%
30年以上	450	59.4%
無回答	13	1.7%
合計	758	100.0%

男女の平等全般についておたずねします。

問1 あなたは、次にあげる分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれ1つずつ選んでください。

「男性の方が優遇されている」・「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた項目で最も回答が多かったものは、「社会通念・慣習・しきたりなど」でした。
また、「女性の方が優遇されている」・「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた項目では、「余暇の機会」が最も多く、次いで、「職場」という結果でした。

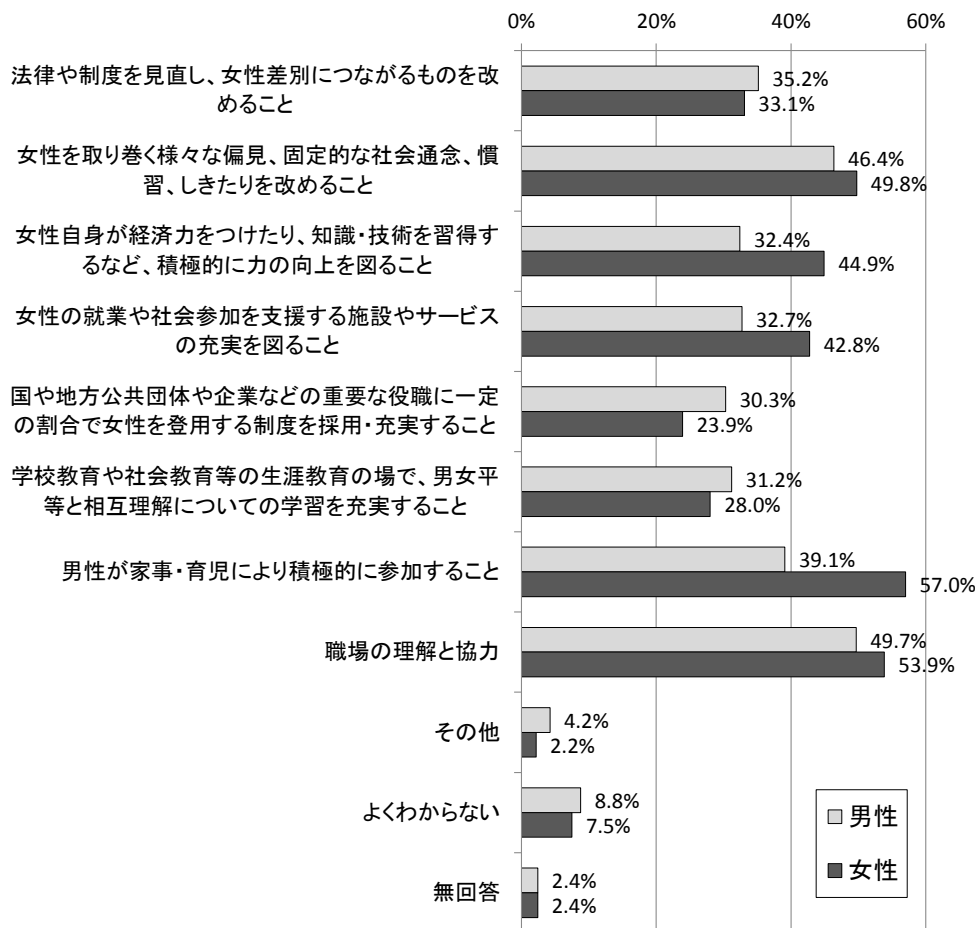


平等
 どちらかといえば男性の方が優遇されている
 どちらかといえば女性の方が優遇されている
 無回答
 男性の方が優遇されている
 女性の方が優遇されている
 わからない

	平等	男性の方が優遇されている	男性どちらの方が優遇	女性どちらの方が優遇	女性どちらの方が優遇	わからない	無回答	合計
家庭生活(家事・育児・介護など)	162	203	210	29	40	76	38	758
職場	184	196	159	31	41	91	56	758
学校教育の場	402	40	43	11	19	178	65	758
政治の場	140	251	179	8	7	119	54	758
自治会などの地域活動の場	195	193	155	14	21	132	48	758
社会通念・慣習・しきたりなど	119	234	236	8	8	105	48	758
法律や制度	235	122	138	11	26	178	48	758
社会全体	136	171	262	12	25	104	48	758
余暇の機会	242	98	101	51	73	142	51	758

問2 今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために、あなたはどのようなことが重要だと思いますか。次の中から、いくつでも選んでください。

「男性」の回答では、「職場の理解と協力」が49.7%と最も高く、次いで、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」が46.4%という結果となっています。また、「女性」の回答率が最も高い項目は、「男性が家事・育児により積極的に参加すること」が57.0%、次いで「職場の理解と協力」が53.9%という結果でした。



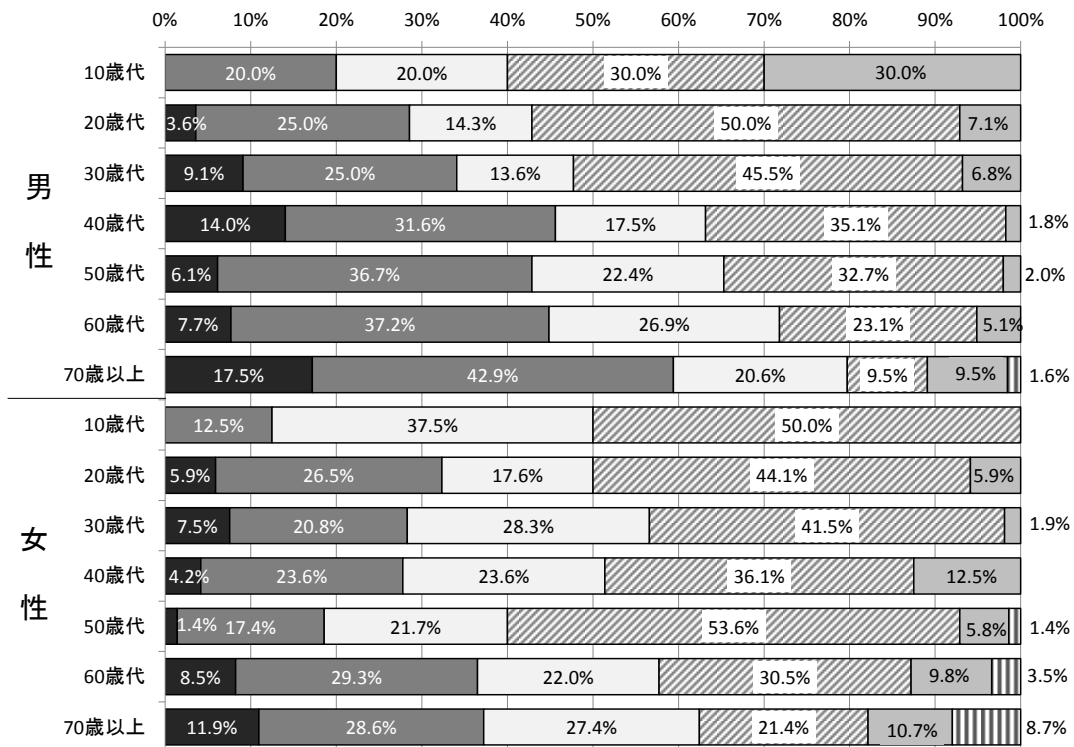
項目	全体		男性		女性	
	票数	構成比	票数	構成比	票数	構成比
法律や制度を見直し、女性差別につながるものを改めること	254	33.5%	116	35.2%	137	33.1%
女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること	361	47.6%	153	46.4%	206	49.8%
女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること	295	38.9%	107	32.4%	186	44.9%
女性の就業や社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	287	37.9%	108	32.7%	177	42.8%
国や地方公共団体や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること	201	26.5%	100	30.3%	99	23.9%
学校教育や社会教育等の生涯教育の場で、男女平等と相互理解についての学習を充実すること	220	29.0%	103	31.2%	116	28.0%
男性が家事・育児により積極的に参加すること	368	48.5%	129	39.1%	236	57.0%
職場の理解と協力	391	51.6%	164	49.7%	223	53.9%
その他	23	3.0%	14	4.2%	9	2.2%
よくわからない	60	7.9%	29	8.8%	31	7.5%
無回答	28	3.7%	8	2.4%	10	2.4%
回答者数	758		330		414	

家庭生活についておたずねします。

問3 あなたは、「男性は仕事、女性は家庭」という考え方についてどのように思いますか。あなたのお考えに最も近いものを、1つ選んでください。

全体の回答率では、「同感しない」が最も高くなっていますが、「男女別」、「年代別」でみると回答率に差が生じています。

特に大きな差は、「10歳代」女性の「同感しない」・「どちらかといえば同感しない」を合わせた回答率が87.5%なのに対し、「70歳代」男性では、「同感しない」・「どちらかといえば同感しない」を合わせた回答率が30.6%という結果でした。

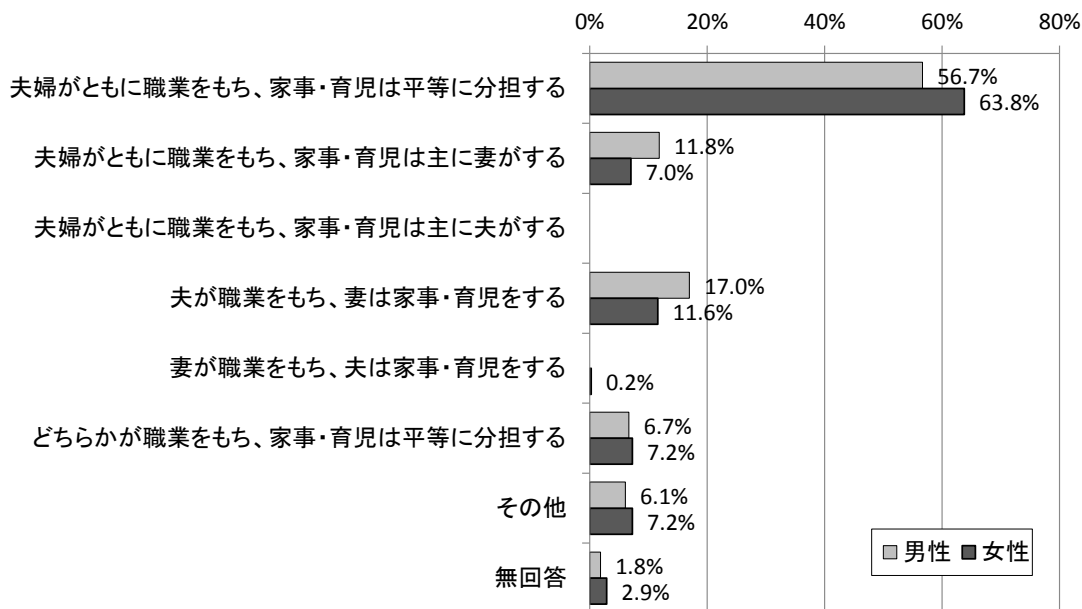


■ 同意する ■ どちらかといえば同意する □ どちらかといえば同感しない ▨ 同感しない ▩ わからない ▪ 無回答

		同意する	どちらかといえば同意する	どちらかといえば同感しない	同感しない	わからない	無回答	合計
男性	10歳代	0	2	2	3	3	0	10
	20歳代	1	7	4	14	2	0	28
	30歳代	4	11	6	20	3	0	44
	40歳代	8	18	10	20	1	0	57
	50歳代	3	18	11	16	1	0	49
	60歳代	6	29	21	18	4	0	78
	70歳以上	11	27	13	6	6	1	64
	合計	33	112	67	97	20	1	330
女性	10歳代	0	1	3	4	0	0	8
	20歳代	2	9	6	15	2	0	34
	30歳代	4	11	15	22	1	0	53
	40歳代	3	17	17	26	9	0	72
	50歳代	1	12	15	37	4	1	70
	60歳代	7	24	18	25	8	3	85
	70歳以上	10	24	23	18	9	8	92
	合計	27	98	97	147	33	12	414

問 4 家庭における夫婦の役割分担について、あなたはどうかあるべきだと思いますか。
あなたのお考えに最も近いものを、1つ選んでください。

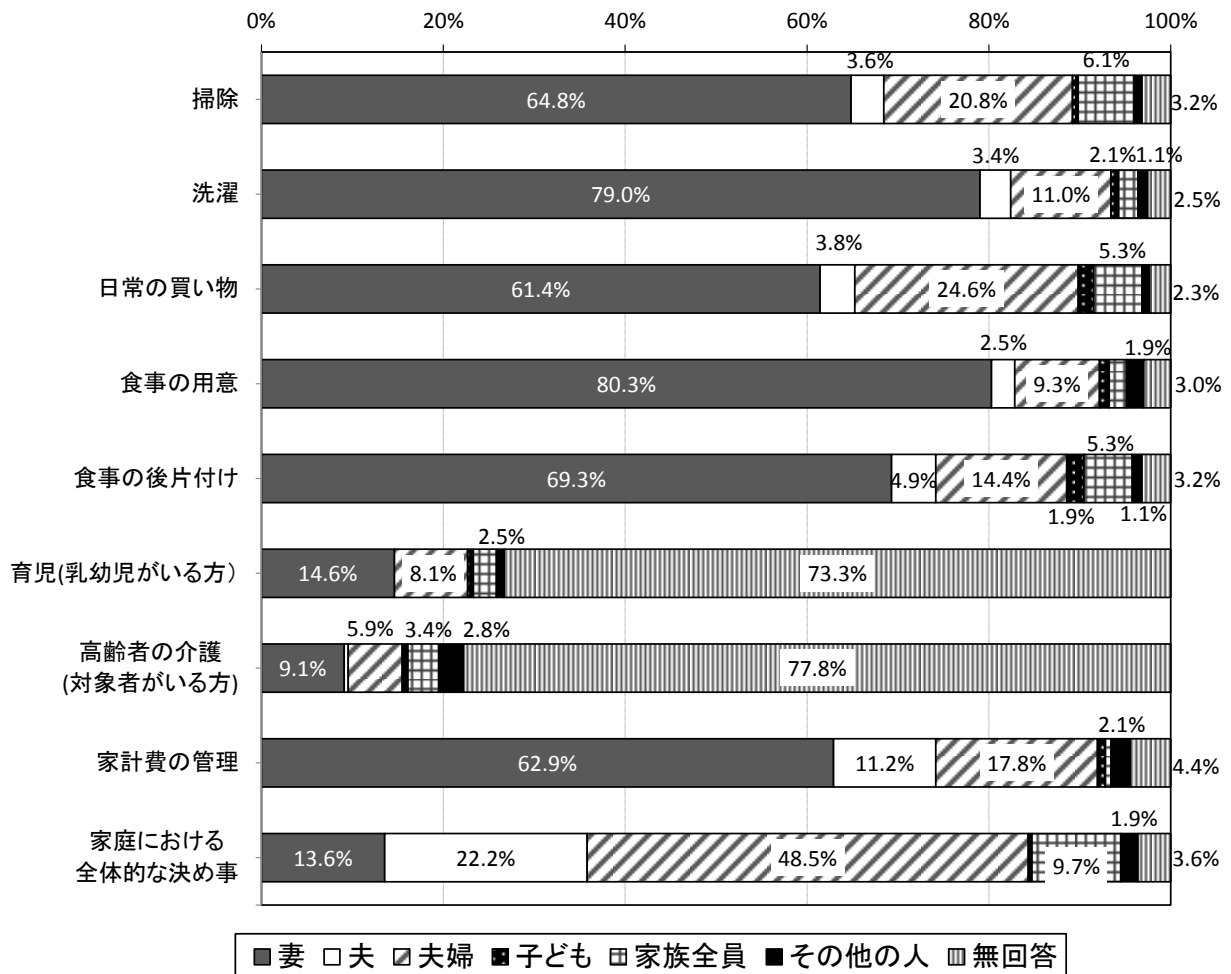
「夫婦がともに職業をもち、家事・育児は平等に分担する」が最も高い回答率となっており、「男性」56.7%、「女性」63.8%という結果でした。



項目	全体		男性		女性	
	票数	構成比	票数	構成比	票数	構成比
夫婦がともに職業をもち、家事・育児は平等に分担する	458	60.4%	187	56.7%	264	63.8%
夫婦がともに職業をもち、家事・育児は主に妻がする	73	9.6%	39	11.8%	29	7.0%
夫婦がともに職業をもち、家事・育児は主に夫がする	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
夫が職業をもち、妻は家事・育児をする	104	13.7%	56	17.0%	48	11.6%
妻が職業をもち、夫は家事・育児をする	2	0.3%	0	0.0%	1	0.2%
どちらかが職業をもち、家事・育児は平等に分担する	52	6.9%	22	6.7%	30	7.2%
その他	50	6.6%	20	6.1%	30	7.2%
無回答	19	2.5%	6	1.8%	12	2.9%
合計	758	100.0%	330	100.0%	414	100.0%

問5 現在、配偶者のいる方にうかがいます。次にあげるような家庭内の仕事は、主にどなたが担当されていますか。それぞれ1つ選んでください。

全ての項目で「妻」よりも「妻」の回答率が高くなっています。項目別でみると、「妻」の項目で回答率が最も高かったのは、「食事の用意」で80.3%、「夫」の項目では、「家庭内における全体的な決め事」が22.2%という結果でした。また、「夫婦」の項目では、「家庭内における全体的な決め事」が48.5%と最も高くなっています。



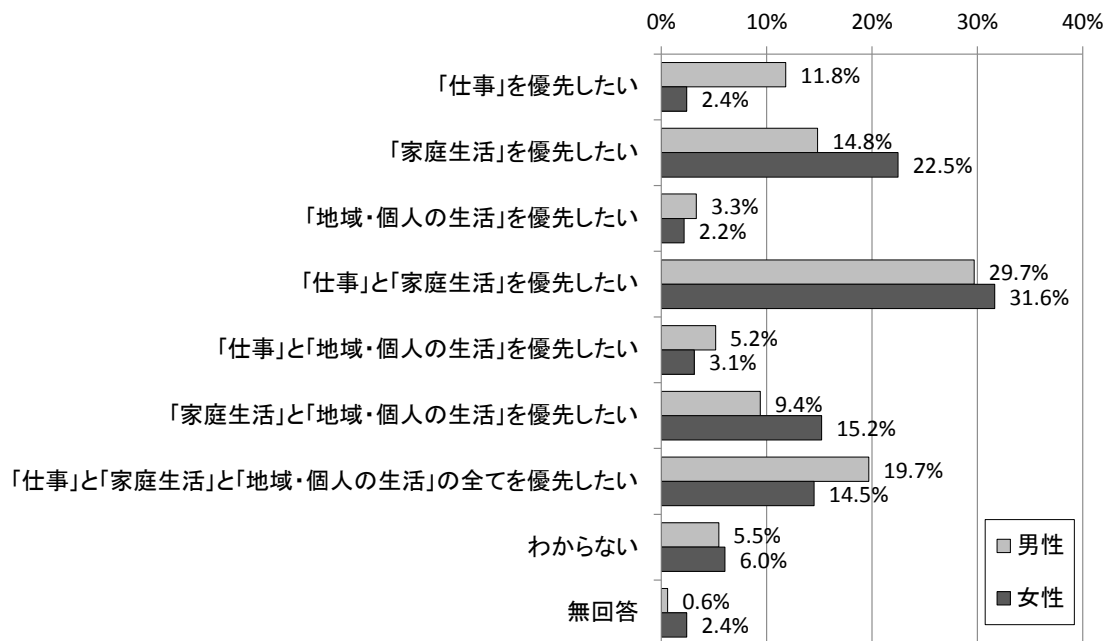
	妻	夫	夫婦	子ども	家族全員	その他の人	無回答	回答者数	非該当	合計
掃除	306	17	98	3	29	4	15	472	286	758
洗濯	373	16	52	4	10	5	12	472	286	758
日常の買い物	290	18	116	8	25	4	11	472	286	758
食事の用意	379	12	44	5	9	9	14	472	286	758
食事の後片付け	327	23	68	9	25	5	15	472	286	758
育児(乳幼児がいる方)	69	0	38	3	12	4	346	472	286	758
高齢者の介護(対象者がいる方)	43	2	28	3	16	13	367	472	286	758
家計費の管理	297	53	84	4	3	10	21	472	286	758
家庭における全体的な決め事	64	105	229	2	46	9	17	472	286	758

ワーク・ライフ・バランスについておたずねします。

問6 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度についてお伺いします。

(1) あなたの希望に最も近いものを、1つ選んでください。

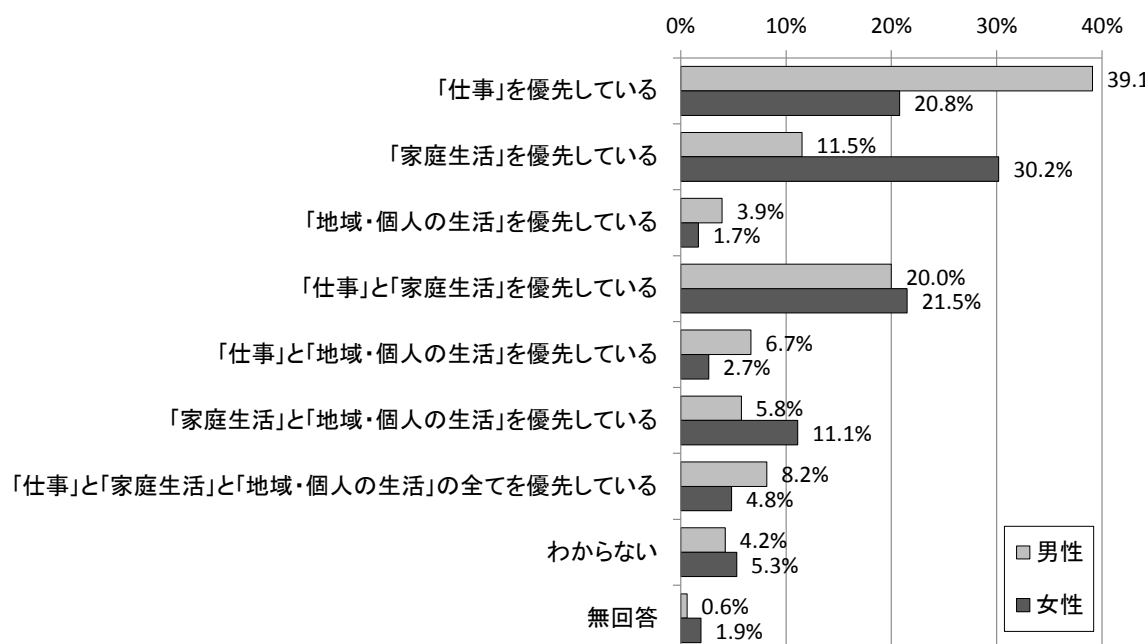
男女ともに、「仕事」と「家庭生活」を優先したいが最も高い回答率となっており、「男性」29.7%、「女性」31.6%という結果でした。



項目	全体		男性		女性	
	票数	構成比	票数	構成比	票数	構成比
「仕事」を優先したい	52	6.9%	39	11.8%	10	2.4%
「家庭生活」を優先したい	146	19.3%	49	14.8%	93	22.5%
「地域・個人の生活」を優先したい	20	2.6%	11	3.3%	9	2.2%
「仕事」と「家庭生活」を優先したい	233	30.7%	98	29.7%	131	31.6%
「仕事」と「地域・個人の生活」を優先したい	30	4.0%	17	5.2%	13	3.1%
「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先したい	94	12.4%	31	9.4%	63	15.2%
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを優先したい	126	16.6%	65	19.7%	60	14.5%
わからない	44	5.8%	18	5.5%	25	6.0%
無回答	13	1.7%	2	0.6%	10	2.4%
合計	758	100.0%	330	100.0%	414	100.0%

(2) それでは、あなたの現実(現状)に最も近いものを、1つ選んでください。

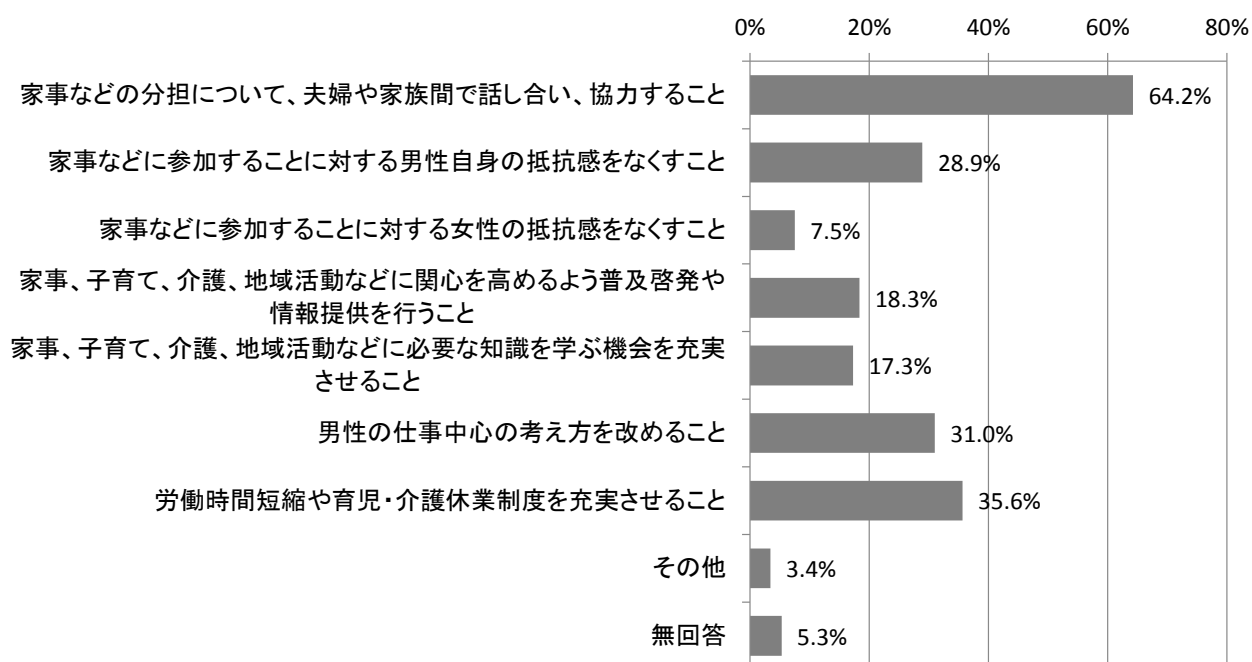
「男性」の回答率では、「「仕事」を優先している」が39.1%と最も高く、女性の回答率の約2倍となっています。「女性」の回答率では、「「家庭生活」を優先している」が30.2%と最も高く、「「仕事」と「家庭生活」を優先している」は、男女ともに2番目に多い回答でした。



項目	全体		男性		女性	
	票数	構成比	票数	構成比	票数	構成比
「仕事」を優先している	221	29.2%	129	39.1%	86	20.8%
「家庭生活」を優先している	164	21.6%	38	11.5%	125	30.2%
「地域・個人の生活」を優先している	20	2.6%	13	3.9%	7	1.7%
「仕事」と「家庭生活」を優先している	159	21.0%	66	20.0%	89	21.5%
「仕事」と「地域・個人の生活」を優先している	33	4.4%	22	6.7%	11	2.7%
「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先している	65	8.6%	19	5.8%	46	11.1%
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを優先している	48	6.3%	27	8.2%	20	4.8%
わからない	37	4.9%	14	4.2%	22	5.3%
無回答	11	1.5%	2	0.6%	8	1.9%
合計	758	100.0%	330	100.0%	414	100.0%

問7 男性が家事、子育て等に参加するためには何が必要だと思いますか。次の中から、いくつでも選んでください。

「家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力すること」が64.2%で最も高く、次いで、「労働時間短縮や育児・介護休業制度を充実させること」が35.6%となっています。

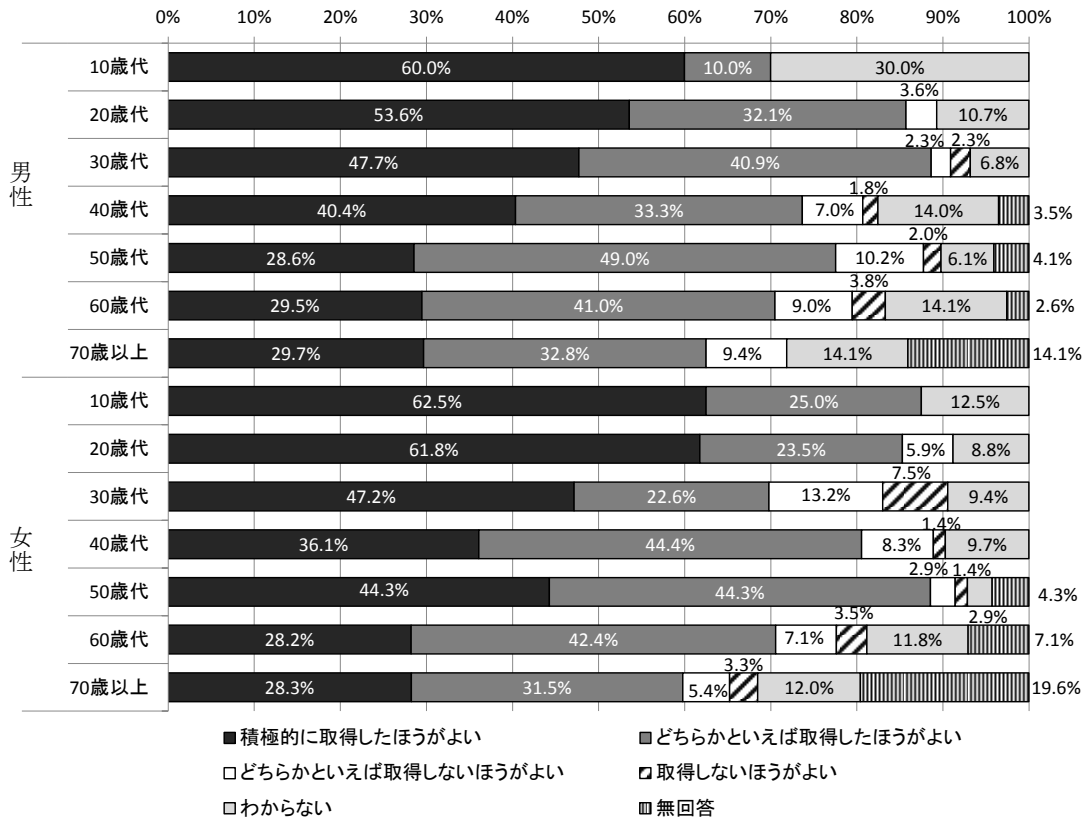


項目	票数	構成比
家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力すること	487	64.2%
家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	219	28.9%
家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	57	7.5%
家事、子育て、介護、地域活動などに関心を高めるよう普及啓発や情報提供を行うこと	139	18.3%
家事、子育て、介護、地域活動などに必要な知識を学ぶ機会を充実させること	131	17.3%
男性の仕事中心の考え方を改めること	235	31.0%
労働時間短縮や育児・介護休業制度を充実させること	270	35.6%
その他	26	3.4%
無回答	40	5.3%
回答者数	758	100.0%

問8 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。この制度を利用して、男性が育児休業や介護休業を取得することについてどう思いますか。それぞれ1つ選んでください

【育児休業】

「積極的に取得した方がよい」・「どちらかといえば取得した方がよい」を合わせると、全ての年代、男女ともに半数以上の方が「取得した方がよい」と回答しています。男女別・年代別でこの回答率が最も高かったのは、「30歳代男性」と「50歳代女性」で、ともに同じ割合の88.6%でした。

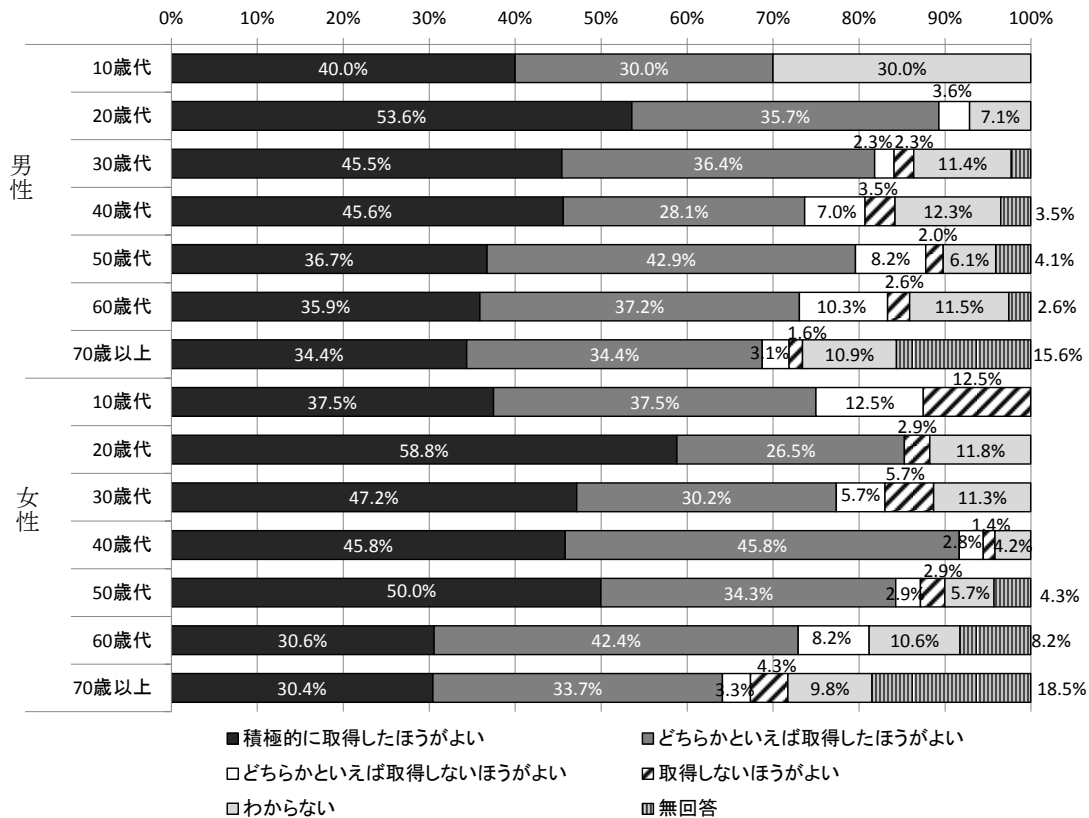


		積極的に取得した方がよい	どちらかといえば取得した方がよい	どちらかといえば取得しない方がよい	取得しない方がよい	わからない	無回答	合計							
男性	10歳代	6	60.0%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	30.0%	0	0.0%	10	100.0%
	20歳代	15	53.6%	9	32.1%	1	3.6%	0	0.0%	3	10.7%	0	0.0%	28	100.0%
	30歳代	21	47.7%	18	40.9%	1	2.3%	1	2.3%	3	6.8%	0	0.0%	44	100.0%
	40歳代	23	40.4%	19	33.3%	4	7.0%	1	1.8%	8	14.0%	2	3.5%	57	100.0%
	50歳代	14	28.6%	24	49.0%	5	10.2%	1	2.0%	3	6.1%	2	4.1%	49	100.0%
	60歳代	23	29.5%	32	41.0%	7	9.0%	3	3.8%	11	14.1%	2	2.6%	78	100.0%
	70歳以上	19	29.7%	21	32.8%	6	9.4%	0	0.0%	9	14.1%	9	14.1%	64	100.0%
合計	121	36.7%	124	37.6%	24	7.3%	6	1.8%	40	12.1%	15	4.5%	330	100.0%	
女性	10歳代	5	62.5%	2	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	12.5%	0	0.0%	8	100.0%
	20歳代	21	61.8%	8	23.5%	2	5.9%	0	0.0%	3	8.8%	0	0.0%	34	100.0%
	30歳代	25	47.2%	12	22.6%	7	13.2%	4	7.5%	5	9.4%	0	0.0%	53	100.0%
	40歳代	26	36.1%	32	44.4%	6	8.3%	1	1.4%	7	9.7%	0	0.0%	72	100.0%
	50歳代	31	44.3%	31	44.3%	2	2.9%	1	1.4%	2	2.9%	3	4.3%	70	100.0%
	60歳代	24	28.2%	36	42.4%	6	7.1%	3	3.5%	10	11.8%	6	7.1%	85	100.0%
	70歳以上	26	28.3%	29	31.5%	5	5.4%	3	3.3%	11	12.0%	18	19.6%	92	100.0%
合計	158	38.2%	150	36.2%	28	6.8%	12	2.9%	39	9.4%	27	6.5%	414	100.0%	

問8 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。この制度を利用して、男性が育児休業や介護休業を取得することについてどう思いますか。それぞれ1つ選んでください

【介護休業】

「積極的に取得した方がよい」・「どちらかといえば取得した方がよい」を合わせると、全ての年代、男女ともに6割以上の方が「取得した方がよい」と回答しています。また、この回答率は、「40歳代女性」が最も高く91.6%となっています。

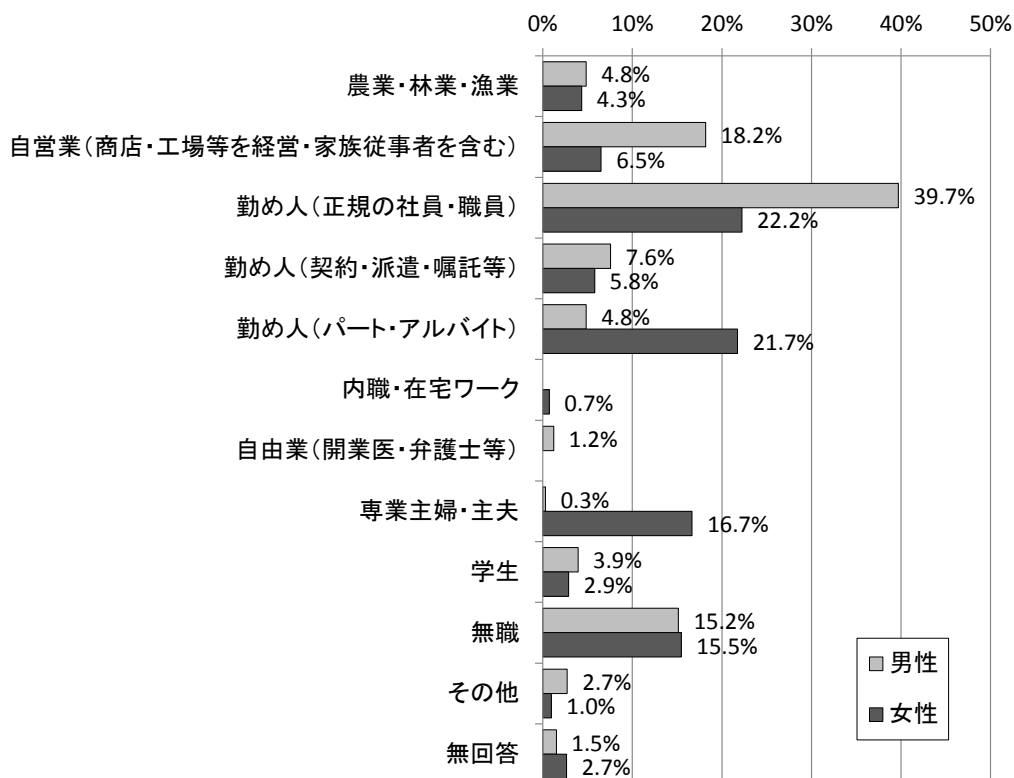


		積極的に取得した方がよい	どちらかといえば取得したほうがよい	どちらかといえば取得しないほうがよい	取得しないほうがよい	わからない	無回答	合計							
男性	10歳代	4	40.0%	3	30.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	30.0%	0	0.0%	10	100.0%
	20歳代	15	53.6%	10	35.7%	1	3.6%	0	0.0%	2	7.1%	0	0.0%	28	100.0%
	30歳代	20	45.5%	16	36.4%	1	2.3%	1	2.3%	5	11.4%	1	2.3%	44	100.0%
	40歳代	26	45.6%	16	28.1%	4	7.0%	2	3.5%	7	12.3%	2	3.5%	57	100.0%
	50歳代	18	36.7%	21	42.9%	4	8.2%	1	2.0%	3	6.1%	2	4.1%	49	100.0%
	60歳代	28	35.9%	29	37.2%	8	10.3%	2	2.6%	9	11.5%	2	2.6%	78	100.0%
	70歳以上	22	34.4%	22	34.4%	2	3.1%	1	1.6%	7	10.9%	10	15.6%	64	100.0%
	合計	133	40.3%	117	35.5%	20	6.1%	7	2.1%	36	10.9%	17	5.2%	330	100.0%
女性	10歳代	3	37.5%	3	37.5%	1	12.5%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	8	100.0%
	20歳代	20	58.8%	9	26.5%	0	0.0%	1	2.9%	4	11.8%	0	0.0%	34	100.0%
	30歳代	25	47.2%	16	30.2%	3	5.7%	3	5.7%	6	11.3%	0	0.0%	53	100.0%
	40歳代	33	45.8%	33	45.8%	2	2.8%	1	1.4%	3	4.2%	0	0.0%	72	100.0%
	50歳代	35	50.0%	24	34.3%	2	2.9%	2	2.9%	4	5.7%	3	4.3%	70	100.0%
	60歳代	26	30.6%	36	42.4%	7	8.2%	0	0.0%	9	10.6%	7	8.2%	85	100.0%
	70歳以上	28	30.4%	31	33.7%	3	3.3%	4	4.3%	9	9.8%	17	18.5%	92	100.0%
合計	170	41.1%	152	36.7%	18	4.3%	12	2.9%	35	8.5%	27	6.5%	414	100.0%	

就業関係についておたずねします。

問9 あなたの主たる職業は次のどれにあたりますか。最も近いものを、1つ選んでください。

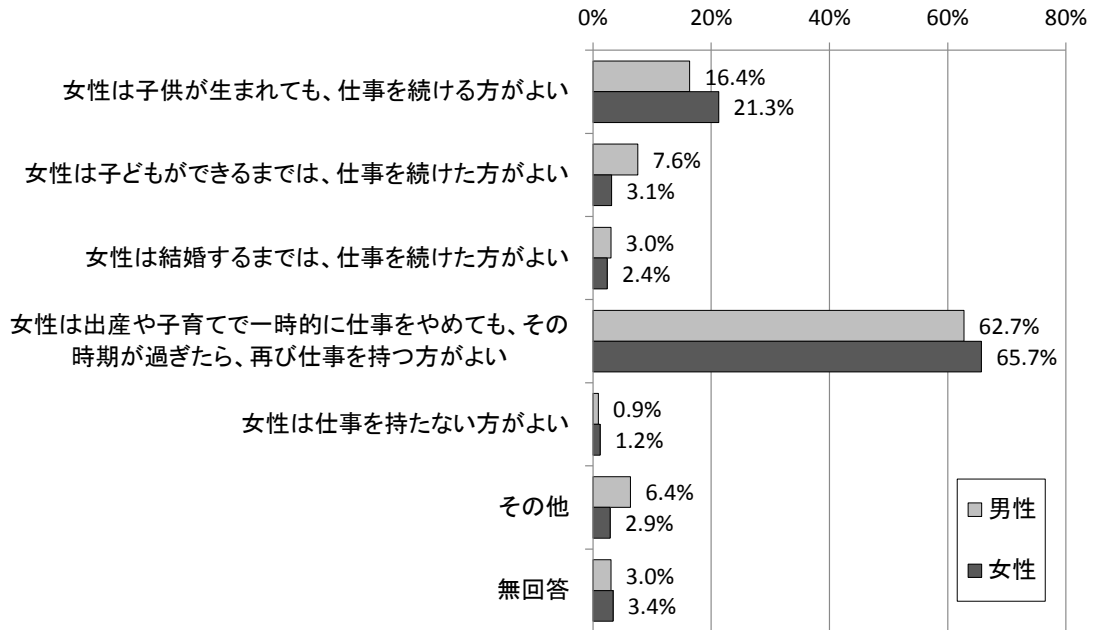
男女ともに、「勤め人（正規の社員・職員）」が最も多く、次いで、男性は「自営業（商店・工場等を経営・家族従事者を含む）」が18.2%、女性は「勤め人（パート・アルバイト）」が21.7%という結果でした。



項目	全体		男性		女性	
	票数	構成比	票数	構成比	票数	構成比
農業・林業・漁業	34	4.5%	16	4.8%	18	4.3%
自営業(商店・工場等を経営・家族従事者を含む)	90	11.9%	60	18.2%	27	6.5%
勤め人(正規の社員・職員)	224	29.6%	131	39.7%	92	22.2%
勤め人(契約・派遣・嘱託等)	52	6.9%	25	7.6%	24	5.8%
勤め人(パート・アルバイト)	108	14.2%	16	4.8%	90	21.7%
内職・在宅ワーク	3	0.4%	0	0.0%	3	0.7%
自由業(開業医・弁護士等)	4	0.5%	4	1.2%	0	0.0%
専業主婦・主夫	70	9.2%	1	0.3%	69	16.7%
学生	25	3.3%	13	3.9%	12	2.9%
無職	117	15.4%	50	15.2%	64	15.5%
その他	13	1.7%	9	2.7%	4	1.0%
無回答	18	2.4%	5	1.5%	11	2.7%
合計	758	100.0%	330	100.0%	414	100.0%

問 10 あなたは、次にあげる仕事の考え方についてどう思いますか。あなたのお考えに最も近いものを、1つ選んでください。

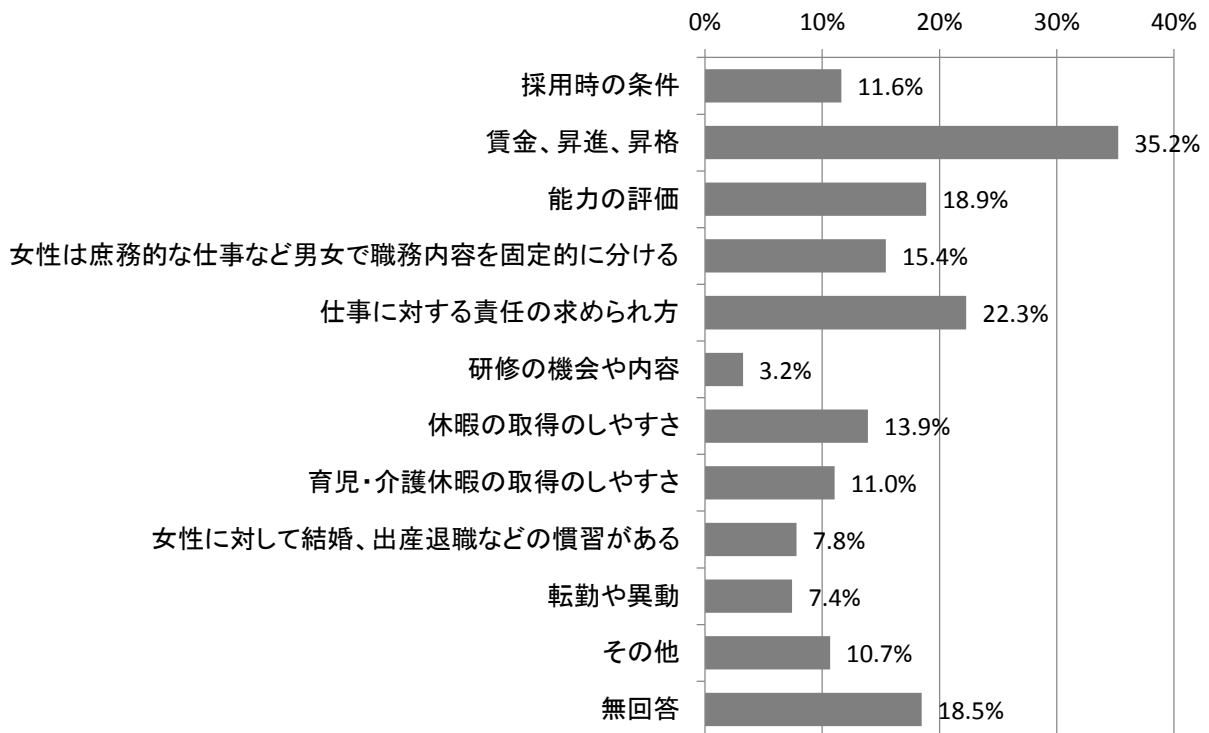
男女ともに、「女性は出産や子育てで一時的に仕事をやめても、その時期が過ぎたら、再び仕事を持つ方がよい」の回答率が最も高く、「男性」62.7%、「女性」65.7%という結果となっています。



項目	全体		男性		女性	
	票数	構成比	票数	構成比	票数	構成比
女性は子供が生まれても、仕事を続ける方がよい	143	18.9%	54	16.4%	88	21.3%
女性は子どもができるまでは、仕事を続けた方がよい	38	5.0%	25	7.6%	13	3.1%
女性は結婚するまでは、仕事を続けた方がよい	20	2.6%	10	3.0%	10	2.4%
女性は出産や子育てで一時的に仕事をやめても、その時期が過ぎたら、再び仕事を持つ方がよい	489	64.5%	207	62.7%	272	65.7%
女性は仕事を持たない方がよい	9	1.2%	3	0.9%	5	1.2%
その他	33	4.4%	21	6.4%	12	2.9%
無回答	26	3.4%	10	3.0%	14	3.4%
合計	758	100.0%	330	100.0%	414	100.0%

問 11 「働いている」方にかがいます。あなたの職場で、男女の地位が平等ではないと思うことはありますか。次の中から、いくつでも選んでください。

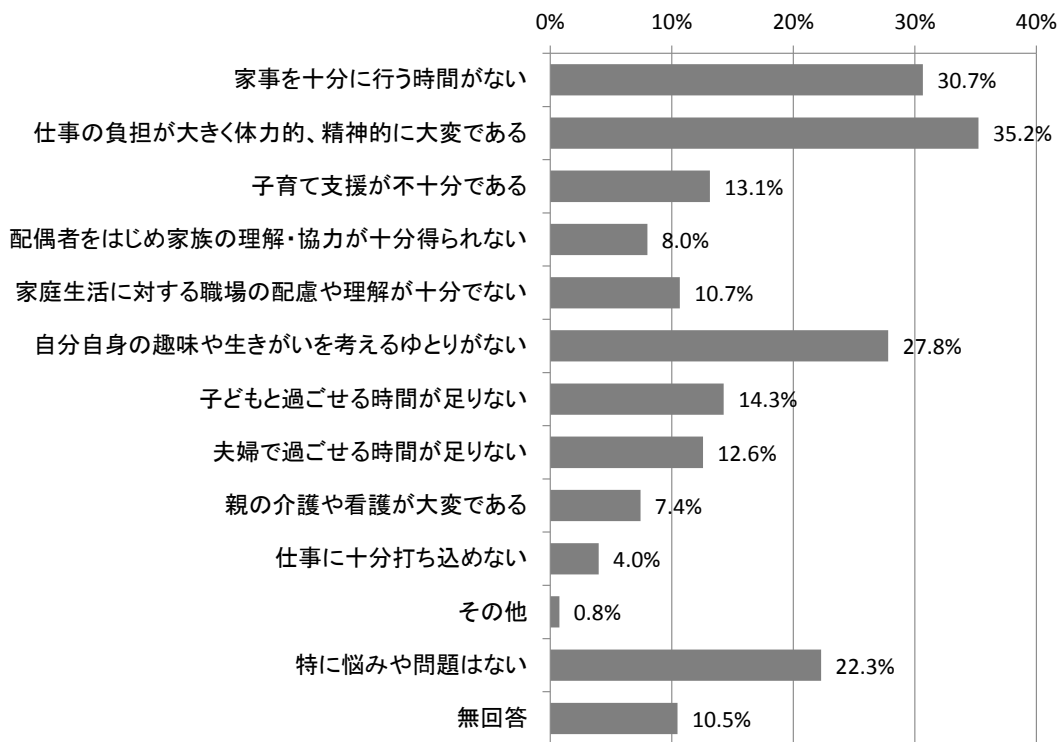
「賃金、昇進、昇格」が 35.2%と最も高く、次いで、「仕事に対する責任の求められ方」が 22.3%、「能力の評価」が 18.9%と続いています。



項目	票数	構成比
採用時の条件	61	11.6%
賃金、昇進、昇格	185	35.2%
能力の評価	99	18.9%
女性は庶務的な仕事など男女で職務内容を固定的に分ける	81	15.4%
仕事に対する責任の求められ方	117	22.3%
研修の機会や内容	17	3.2%
休暇の取得のしやすさ	73	13.9%
育児・介護休暇の取得のしやすさ	58	11.0%
女性に対して結婚、出産退職などの慣習がある	41	7.8%
転勤や異動	39	7.4%
その他	56	10.7%
無回答	97	18.5%
回答者数	525	

問 12 「働いている」方にうかがいます。仕事と家庭生活を両立させる上での悩み、問題は何ですか。次の中から、いくつでも選んでください。

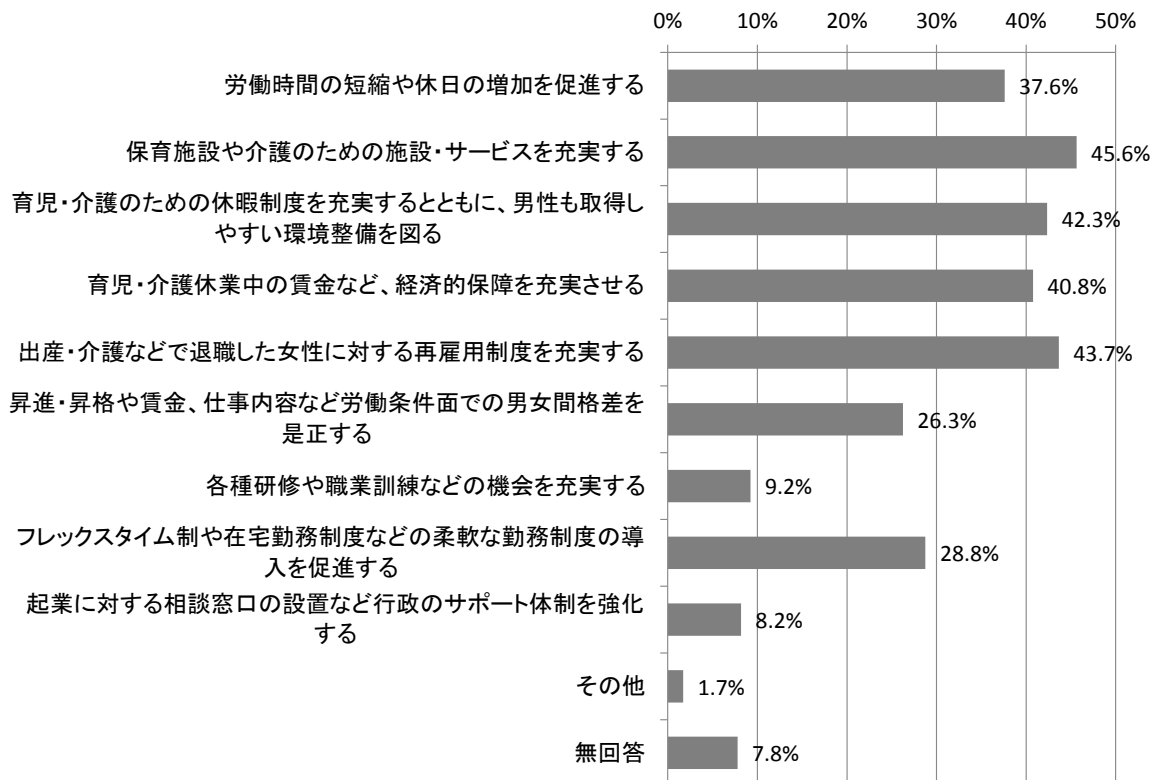
回答率が高いものから順に、「仕事の負担が大きく、体力的、精神的に大変である」35.2%「家事を十分に行う時間がない」30.7%、「自分自身の趣味や生きがいを考えるゆとりがない」27.8%という結果でした。



項目	票数	構成比
家事を十分に行う時間がない	161	30.7%
仕事の負担が大きく体力的、精神的に大変である	185	35.2%
子育て支援が不十分である	69	13.1%
配偶者をはじめ家族の理解・協力が十分得られない	42	8.0%
家庭生活に対する職場の配慮や理解が十分でない	56	10.7%
自分自身の趣味や生きがいを考えるゆとりがない	146	27.8%
子どもと過ごせる時間が足りない	75	14.3%
夫婦で過ごせる時間が足りない	66	12.6%
親の介護や看護が大変である	39	7.4%
仕事に十分打ち込めない	21	4.0%
その他	4	0.8%
特に悩みや問題はない	117	22.3%
無回答	55	10.5%
回答者数	525	

問 13 あなたは、男性も女性も働きやすい社会にするためには、どんなことが必要だと思いますか。次の中から、いくつでも選んでください。

「保育施設や介護のための施設・サービスを充実する」が45.6%と最も高く、次いで「出産・介護などで退職した女性に対する再雇用制度を充実する」が43.7%となっており、出産・育児・介護に関する項目の回答率が高くなっています。

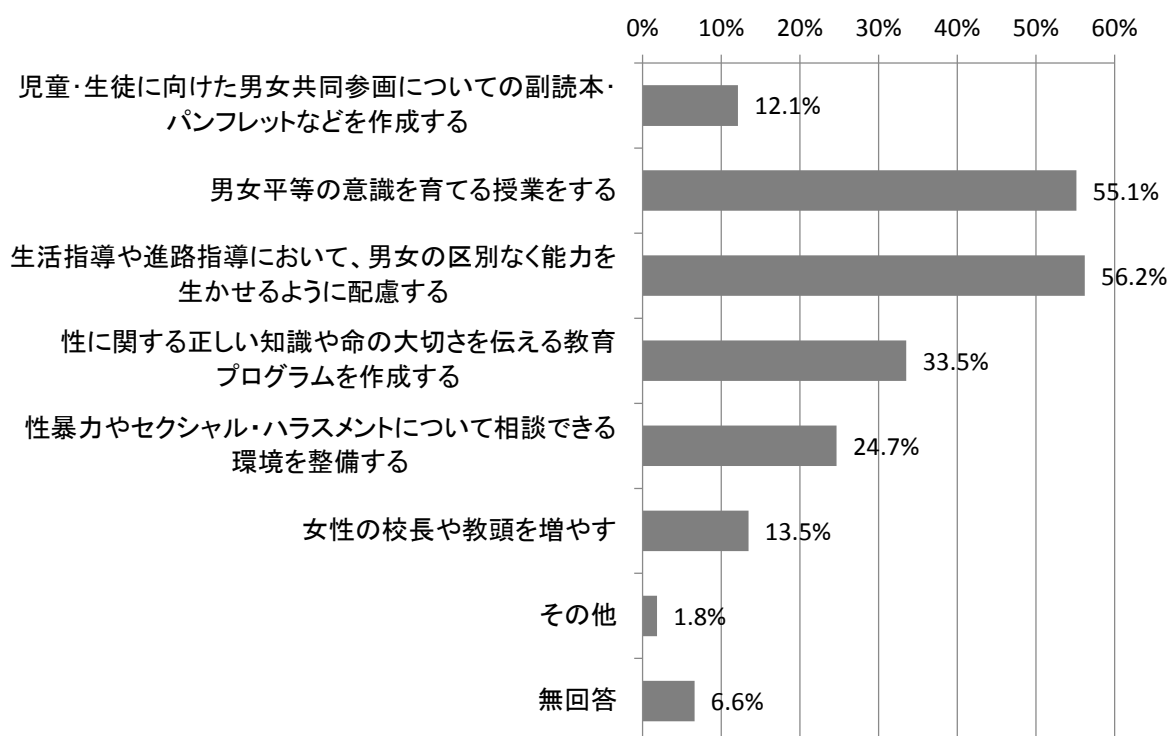


項目	票数	構成比
労働時間の短縮や休日の増加を促進する	285	37.6%
保育施設や介護のための施設・サービスを充実する	346	45.6%
育児・介護のための休暇制度を充実するとともに、男性も取得しやすい環境整備を図る	321	42.3%
育児・介護休業中の賃金など、経済的保障を充実させる	309	40.8%
出産・介護などで退職した女性に対する再雇用制度を充実する	331	43.7%
昇進・昇格や賃金、仕事内容など労働条件面での男女間格差を是正する	199	26.3%
各種研修や職業訓練などの機会を充実する	70	9.2%
フレックスタイム制や在宅勤務制度などの柔軟な勤務制度の導入を促進する	218	28.8%
起業に対する相談窓口の設置など行政のサポート体制を強化する	62	8.2%
その他	13	1.7%
無回答	59	7.8%
回答者数	758	

学校教育についておたずねします。

問 14 学校教育（小・中学校）のなかで男女平等を進めるための取組みとして、特に何に力を入れるべきだと思いますか。次の中から、いくつでも選んでください。

最も回答率が高い項目は、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるように配慮する」56.2%と、「男女平等の意識を育てる授業をする」55.1%で、同じ位の回答率となっています。

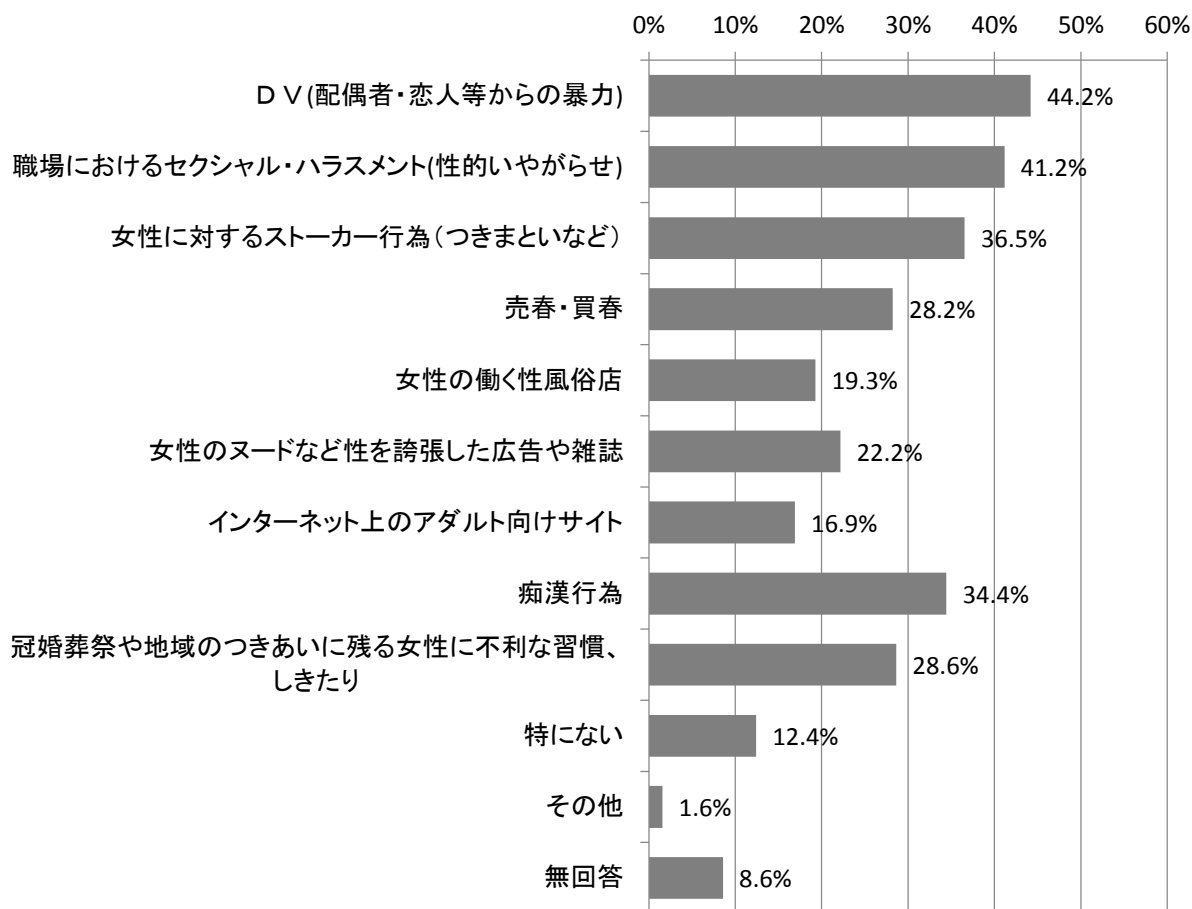


項目	票数	構成比
児童・生徒に向けた男女共同参画についての副読本・パンフレットなどを作成する	92	12.1%
男女平等の意識を育てる授業をする	418	55.1%
生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるように配慮する	426	56.2%
性に関する正しい知識や命の大切さを伝える教育プログラムを作成する	254	33.5%
性暴力やセクシャル・ハラスメントについて相談できる環境を整備する	187	24.7%
女性の校長や教頭を増やす	102	13.5%
その他	14	1.8%
無回答	50	6.6%
回答者数	758	

男女の人権についておたずねします。

問 15 次の中で、女性の人権が尊重されていないと感じるものがあれば、いくつでも選んでください。

「DV（配偶者・恋人からの暴力）」が44.2%と最も高く、次いで、「職場におけるセクシャル・ハラスメント（性的いやがらせ）」が41.2%、「女性に対するストーカー行為（つきまといなど）」が36.5%と続いています。

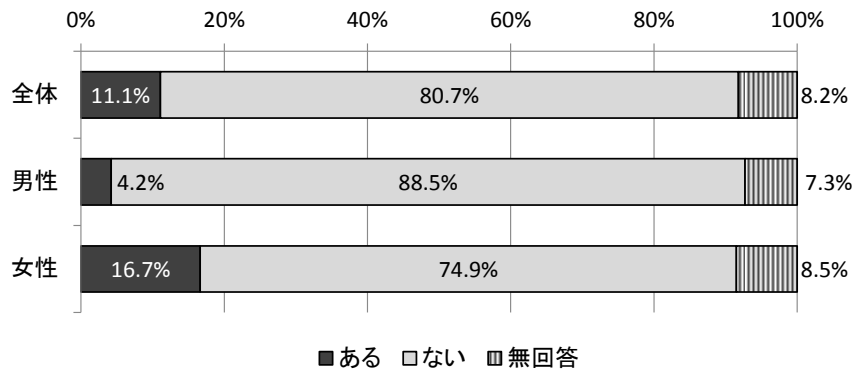


項目	票数	構成比
DV(配偶者・恋人等からの暴力)	335	44.2%
職場におけるセクシャル・ハラスメント(性的いやがらせ)	312	41.2%
女性に対するストーカー行為(つきまといなど)	277	36.5%
痴漢行為	261	34.4%
冠婚葬祭や地域のつきあいに残る女性に不利な習慣、しきたり	217	28.6%
売春・買春	214	28.2%
女性に対するヌードなど性を誇張した広告や雑誌	168	22.2%
インターネット上のアダルト向けサイト	128	16.9%
特にない	94	12.4%
無回答	65	8.6%
その他	12	1.6%
回答者数	758	

問 16 あなたは、以下の1から9のような暴力的な行為を受けた経験はありますか。

- 1 大切にしているものをわざと捨てたり壊したりされる
- 2 外出や人との付き合いを制限される
- 3 素手や身体を傷つける可能性のあるもので殴られる
- 4 足で蹴られる
- 5 大声でどなられたり、暴言を吐かれる
- 6 嫌がっているのに性的行為を強要される
- 7 何を言っても無視され続ける
- 8 生活費を渡さないなど、経済的におさえつけられる
- 9 その他

「女性」の「ある」が16.7%、「男性」の「ある」が4.2%で、女性の割合が高くなっています。

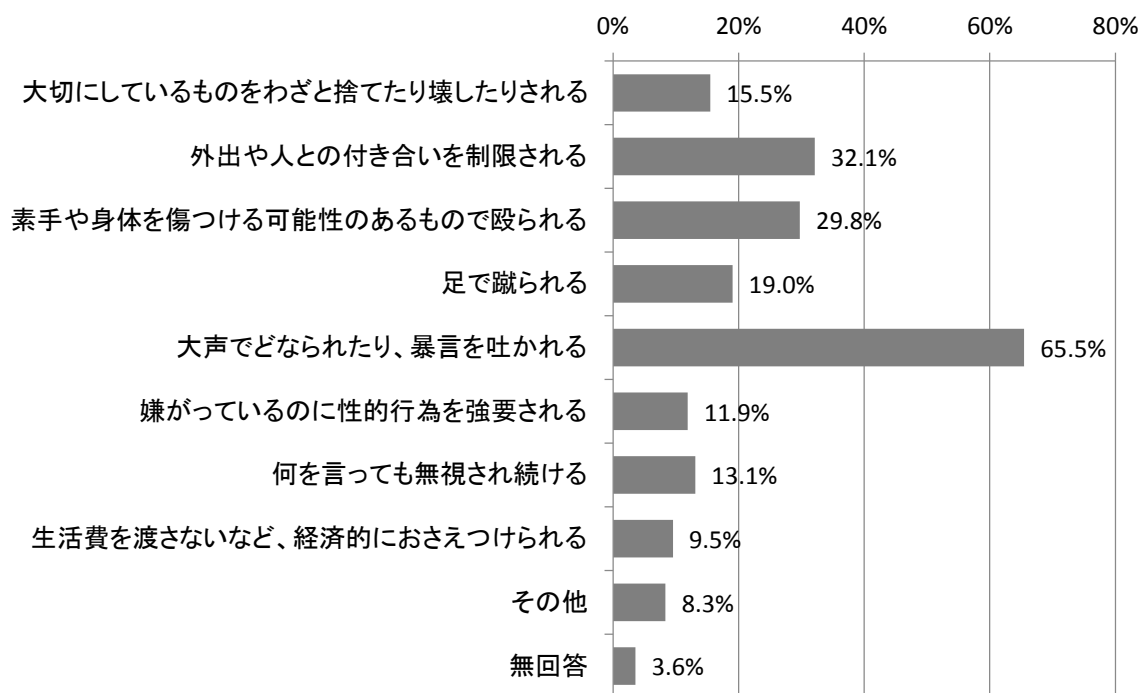


項目	全体		男性		女性	
	票数	構成比	票数	構成比	票数	構成比
ある	84	11.1%	14	4.2%	69	16.7%
ない	612	80.7%	292	88.5%	310	74.9%
無回答	62	8.2%	24	7.3%	35	8.5%
合計	758	100.0%	330	100.0%	414	100.0%

《問 16 で「ある」と回答した方にお伺いします。》

問 16-1 それはどのようなことですか。差支えなければ、受けたことがあるものを次の中から、いくつでも選んでください。

「大声でどなられたり、暴言を吐かれる」が 65.5%と圧倒的に高い回答率となっています。

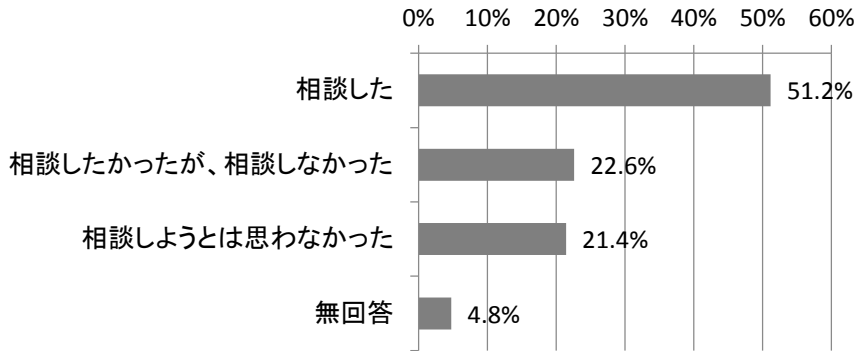


項目	票数	構成比
大切にしているものをわざと捨てたり壊したりされる	13	15.5%
外出や人との付き合いを制限される	27	32.1%
素手や身体を傷つける可能性のあるもので殴られる	25	29.8%
足で蹴られる	16	19.0%
大声でどなられたり、暴言を吐かれる	55	65.5%
嫌がっているのに性的行為を強要される	10	11.9%
何を言っても無視され続ける	11	13.1%
生活費を渡さないなど、経済的におさえつけられる	8	9.5%
その他	7	8.3%
無回答	3	3.6%
回答者数	84	

《問 16 で「ある」と回答した方にお伺いします。》

問 16-2 あなたは、これまでに受けたそのような行為を誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。次の中から、1つ選んでください。

51.2%の方が「相談した」と回答しています。

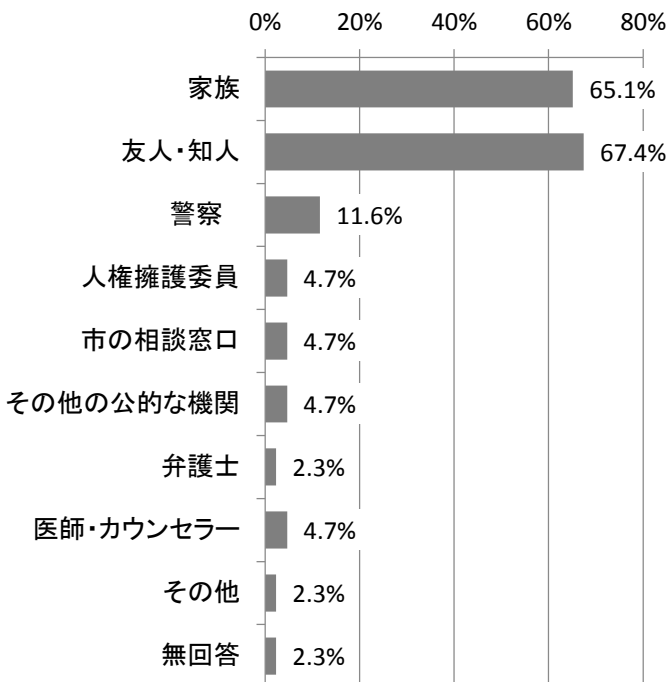


項目	票数	構成比
相談した	43	51.2%
相談したかったが、相談しなかった	19	22.6%
相談しようとは思わなかった	18	21.4%
無回答	4	4.8%
回答者数	84	100.0%

《問 16-2 で「相談した」と回答した方にお伺いします。》

問 16-3 誰(どこ)に相談しましたか。あてはまるものを全て選んでください。

「友人・知人」と「家族」が高い回答率となっており、それぞれ 67.4%、65.1%という結果でした。次いで、「警察」が 11.6%となっていますが、それ以外は 5%未満と低い回答率でした。

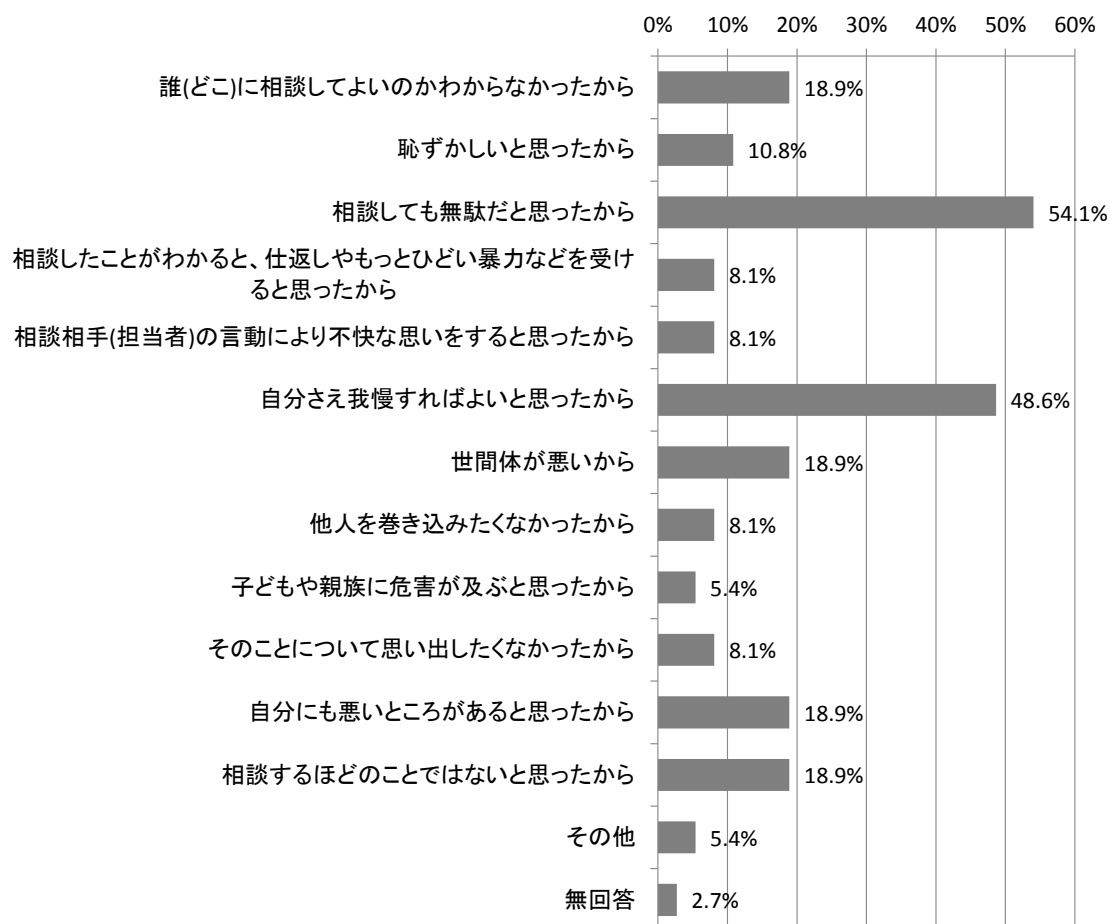


項目	票数	構成比
家族	28	65.1%
友人・知人	29	67.4%
警察	5	11.6%
人権擁護委員	2	4.7%
市の相談窓口	2	4.7%
その他の公的な機関	2	4.7%
弁護士	1	2.3%
医師・カウンセラー	2	4.7%
その他	1	2.3%
無回答	1	2.3%
回答者数	43	

《問 16-2 で「相談したかったが、相談しなかった」または「相談しようとは思わなかった」と回答した方にお伺いします。》

問 16-4 相談しなかったのはどうしてですか。あてはまるものを全て選んでください。

「相談しても無駄だと思ったから」が 54.1%と最も高く、次いで、「自分さえ我慢すればよいと思った」が 48.6%となっています。

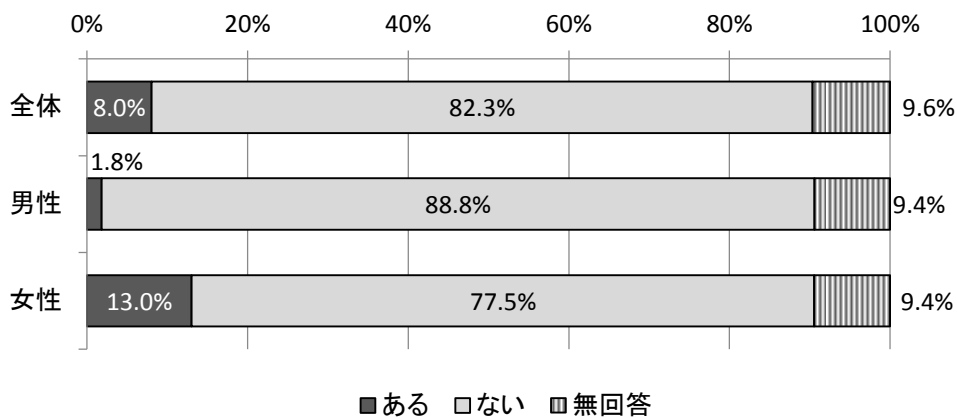


項目	票数	構成比
誰(どこ)に相談してよいのかわからなかったから	7	18.9%
恥ずかしいと思ったから	4	10.8%
相談しても無駄だと思ったから	20	54.1%
相談したことがわかると、仕返しやもっとひどい暴力などを受けると思ったから	3	8.1%
相談相手(担当者)の言動により不快な思いをすと思ったから	3	8.1%
自分さえ我慢すればよいと思ったから	18	48.6%
世間体が悪いから	7	18.9%
他人を巻き込みたくなかったから	3	8.1%
子どもや親族に危害が及ぶと思ったから	2	5.4%
そのことについて思い出したくなかったから	3	8.1%
自分にも悪いところがあると思ったから	7	18.9%
相談するほどのことではないと思ったから	7	18.9%
その他	2	5.4%
無回答	1	2.7%
回答者数	37	

問 17 職場・学校・地域活動（自治会、PTAなど）の場で、以下の1から12のような、セクシャル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受けた経験はありますか。

- 1 嫌がっているのに、性に関する話を聞かされた
- 2 「女のくせに」、「男のくせに」と差別的な言い方をされた
- 3 不必要に体をさわられた
- 4 宴会などでお酌やデュエットを強要された
- 5 交際を強要された
- 6 性的な行為を強要された
- 7 異性関係や性的なことについてうわさをたてられた
- 8 結婚や出産など、プライベートなことについてたびたび聞かれた
- 9 容姿について傷つくようなことを言われた
- 10 性的な内容の手紙やメール、電話を受けた
- 11 ヌード写真などが職場などに貼られていたり、見せられたりした
- 12 その他

「女性」の「ある」が13.0%、「男性」の「ある」が1.8%と、女性の割合が高くなっています。

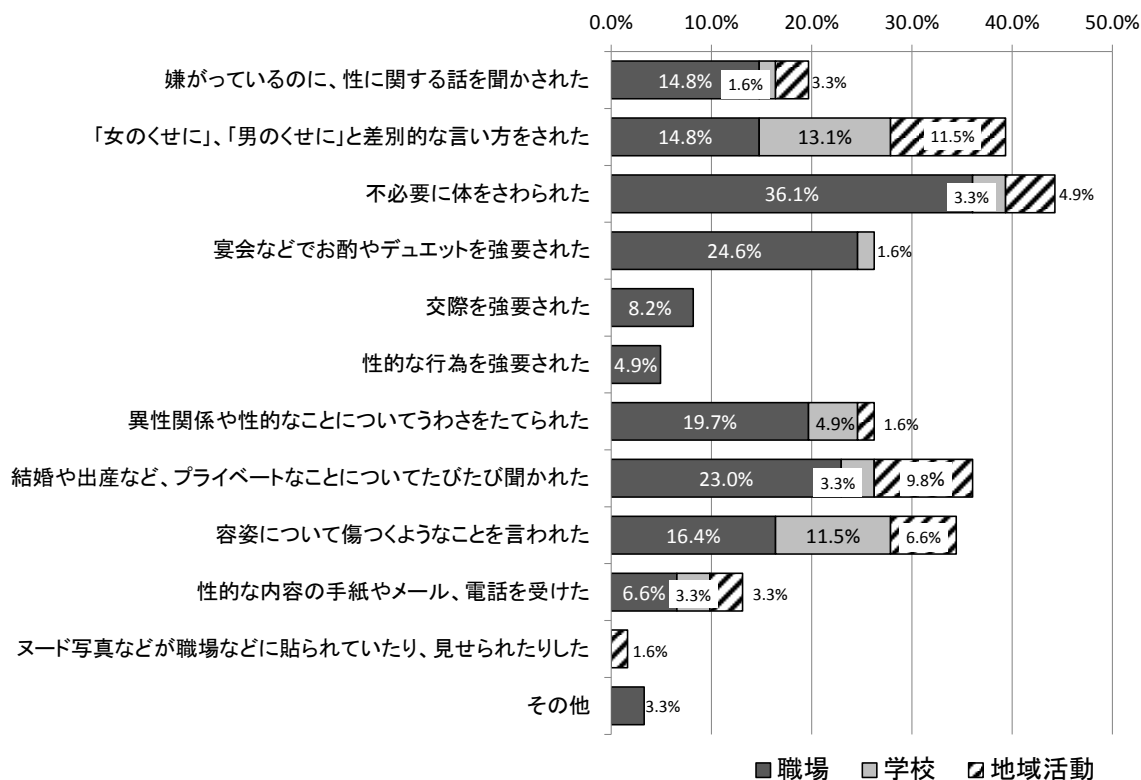


項目	全体		男性		女性	
	票数	構成比	票数	構成比	票数	構成比
ある	61	8.0%	6	1.8%	54	13.0%
ない	624	82.3%	293	88.8%	321	77.5%
無回答	73	9.6%	31	9.4%	39	9.4%
合計	758	100.0%	330	100.0%	414	100.0%

《問 17 で「ある」と回答した方にお伺いします。》

問 17-1 それはどのようなことでしたか。差支えなければ、受けたことがあるものを次の中から、いくつでも選んでください。

「職場」では、「不必要に体をさわられた」が36.1%と最も高く、「学校」と「地域活動」では、「女のくせに」、「男のくせに」と差別的な言い方をされた」がそれぞれ13.1%・11.5%で最も高い回答率となっています。

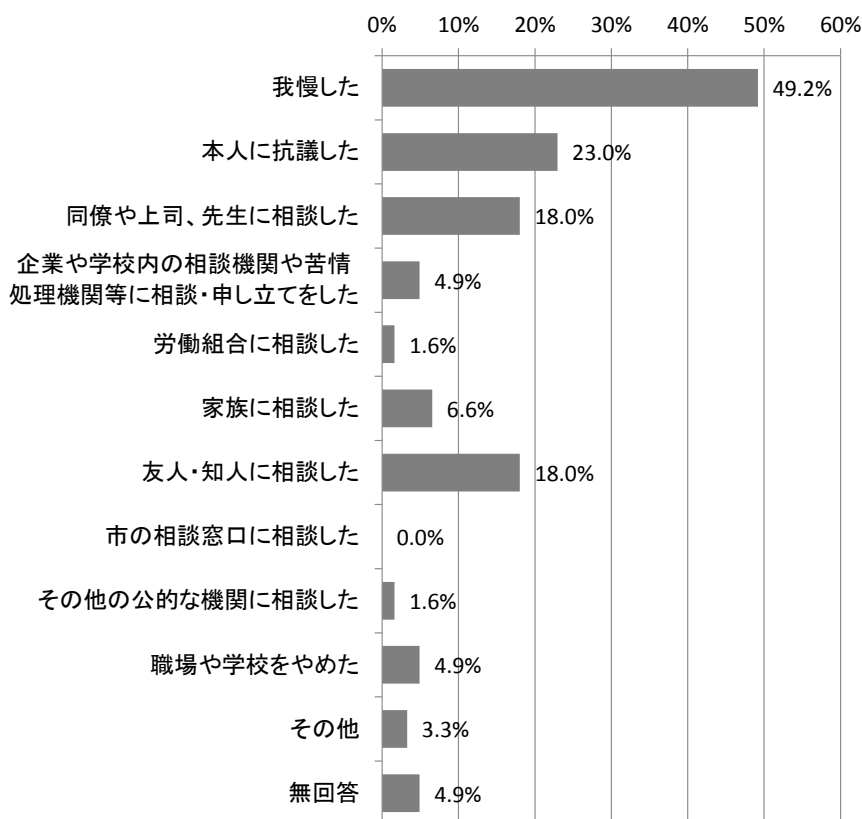


	職場	学校	地域活動	無回答	回答者数
嫌がっているのに、性に関する話を聞かされた	9	1	2	51	61
「女のくせに」、「男のくせに」と差別的な言い方をされた	9	8	7	40	61
不必要に体をさわられた	22	2	3	36	61
宴会などでお酌やデュエットを強要された	15	1	0	45	61
交際を強要された	5	0	0	56	61
性的な行為を強要された	3	0	0	58	61
異性関係や性的なことについてうわさをたてられた	12	3	1	47	61
結婚や出産など、プライベートなことについてたびたび聞かれた	14	2	6	44	61
容姿について傷つくようなことを言われた	10	7	4	43	61
性的な内容の手紙やメール、電話を受けた	4	2	2	54	61
ヌード写真などが職場などに貼られていたり、見せられたりした	0	0	1	60	61
その他	2	0	0	59	61

《問 17 で「ある」と回答した方にお伺いします。》

問 17-2 そのことについて、あなたはどうしましたか。あてはまるものを全て選んでください。

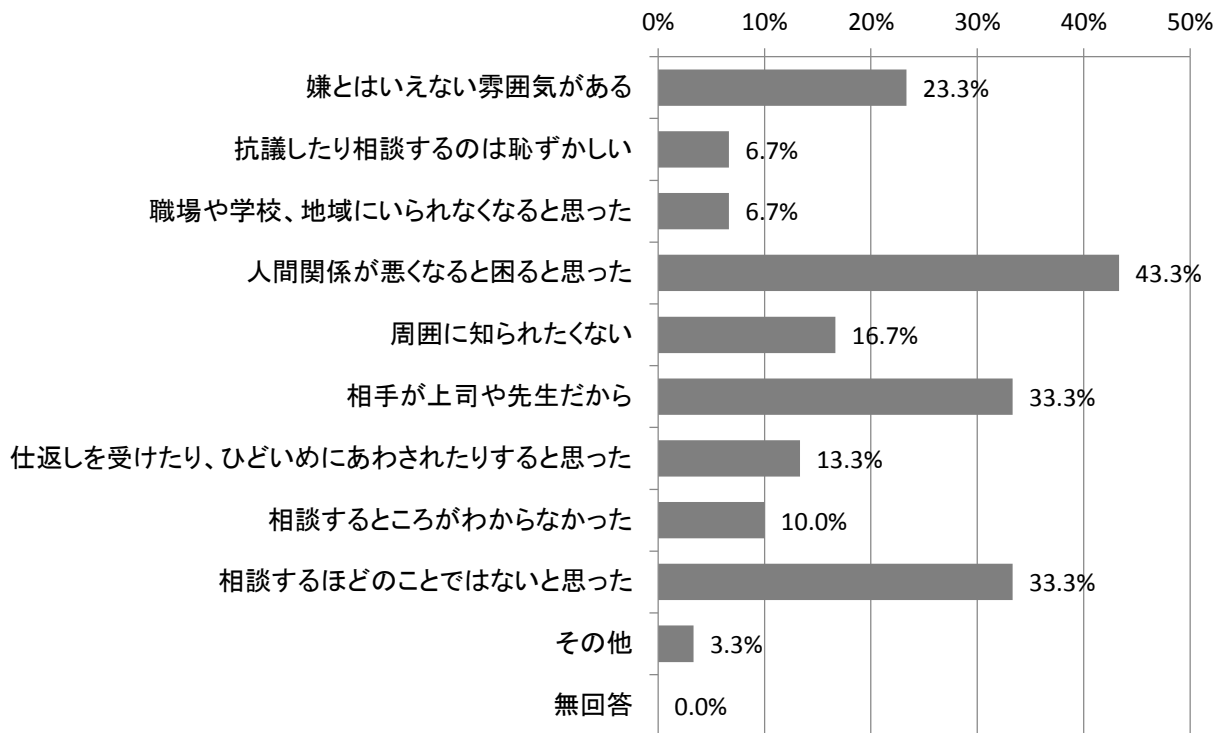
「我慢した」が 49.2% と最も高い回答率となっています。次いで、「本人に抗議した」が 23.0%、「同僚や上司、先生に相談した」と「友人・知人に相談した」が同じ割合で 18.0% という結果でした。



項目	票数	構成比
我慢した	30	49.2%
本人に抗議した	14	23.0%
同僚や上司、先生に相談した	11	18.0%
企業や学校内の相談機関や苦情処理機関等に相談・申し立てをした	3	4.9%
労働組合に相談した	1	1.6%
家族に相談した	4	6.6%
友人・知人に相談した	11	18.0%
市の相談窓口相談した	0	0.0%
その他の公的な機関に相談した	1	1.6%
職場や学校をやめた	3	4.9%
その他	2	3.3%
無回答	3	4.9%
回答者数	61	

《問 17-2 で「我慢した」と回答した方にお伺いします。》
問 17-3 その理由はなんですか。あてはまるものを全て選んでください。

「人間関係が悪くなると困ると思った」が 43.3%で最も多く、次いで、「相手が上司や先生だから」と「相談するほどのことではないと思った」が同じ割合で 33.3%となっています。

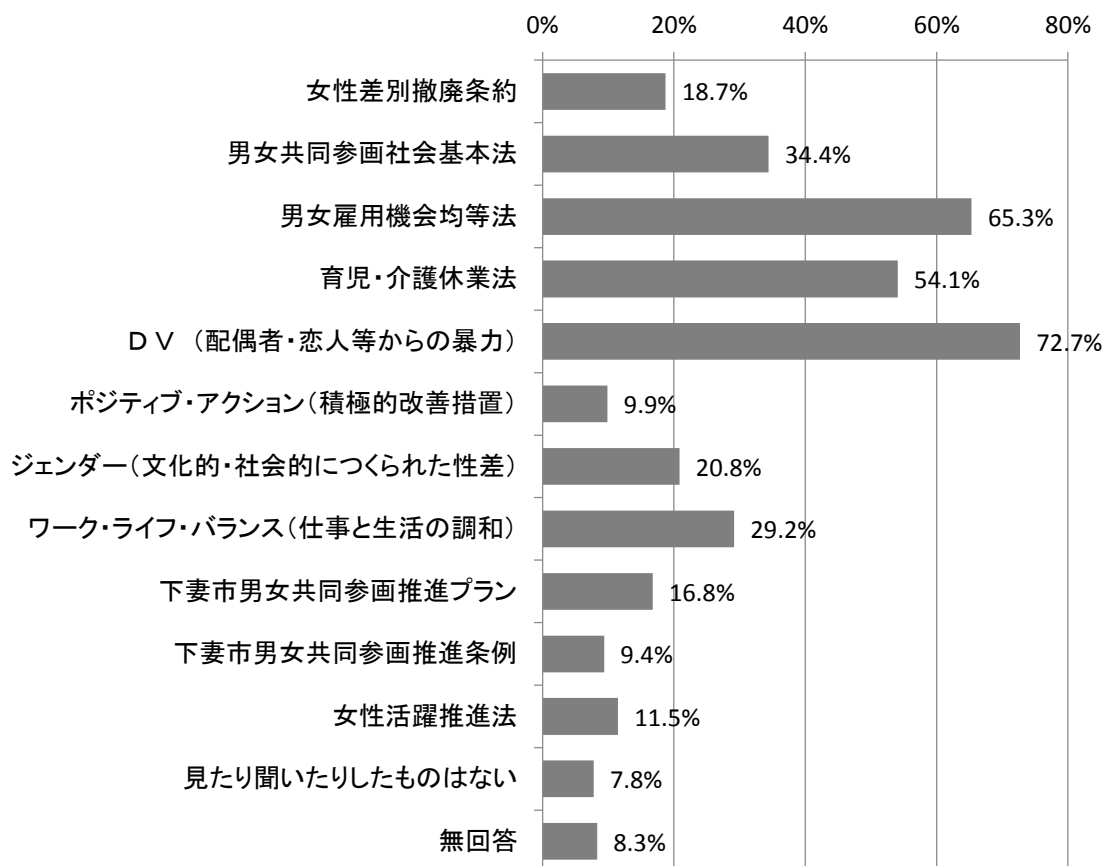


項目	票数	構成比
嫌とはいえない雰囲気がある	7	23.3%
抗議したり相談するのは恥ずかしい	2	6.7%
職場や学校、地域にいられなくなると思った	2	6.7%
人間関係が悪くなると困ると思った	13	43.3%
周囲に知られたくない	5	16.7%
相手が上司や先生だから	10	33.3%
仕返しを受けたり、ひどいめにあわされたりすると思った	4	13.3%
相談するところがわからなかった	3	10.0%
相談するほどのことではないと思った	10	33.3%
その他	1	3.3%
無回答	0	0.0%
回答者数	30	

男女共同参画社会についておたずねします。

問 18 あなたは、次にあげた言葉を見たり聞いたりしたことはありますか。見たり聞いたりしたことがあるものを全て選んでください。

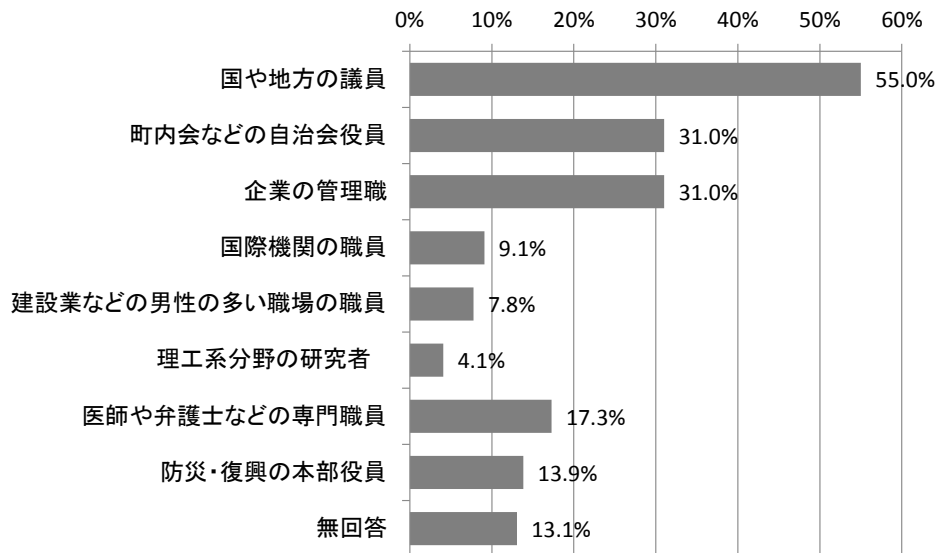
回答率が高かった順に、「DV（配偶者・恋人からの暴力）」が72.7%、「男女雇用機会均等法」が65.3%、「育児・介護休業法」が54.1%と続いています。



項目	票数	構成比
女性差別撤廃条約	142	18.7%
男女共同参画社会基本法	261	34.4%
男女雇用機会均等法	495	65.3%
育児・介護休業法	410	54.1%
DV(配偶者・恋人等からの暴力)	551	72.7%
ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	75	9.9%
ジェンダー(文化的・社会的につくられた性差)	158	20.8%
ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	221	29.2%
下妻市男女共同参画推進プラン	127	16.8%
下妻市男女共同参画推進条例	71	9.4%
女性活躍推進法	87	11.5%
見たり聞いたりしたものはなし	59	7.8%
無回答	63	8.3%
回答者数	758	

問 19 女性の意見をより反映させるために、女性の参画を進める必要があると考える分野はどれですか。次の中から必要だと思われるものを、2つまで選んでください。

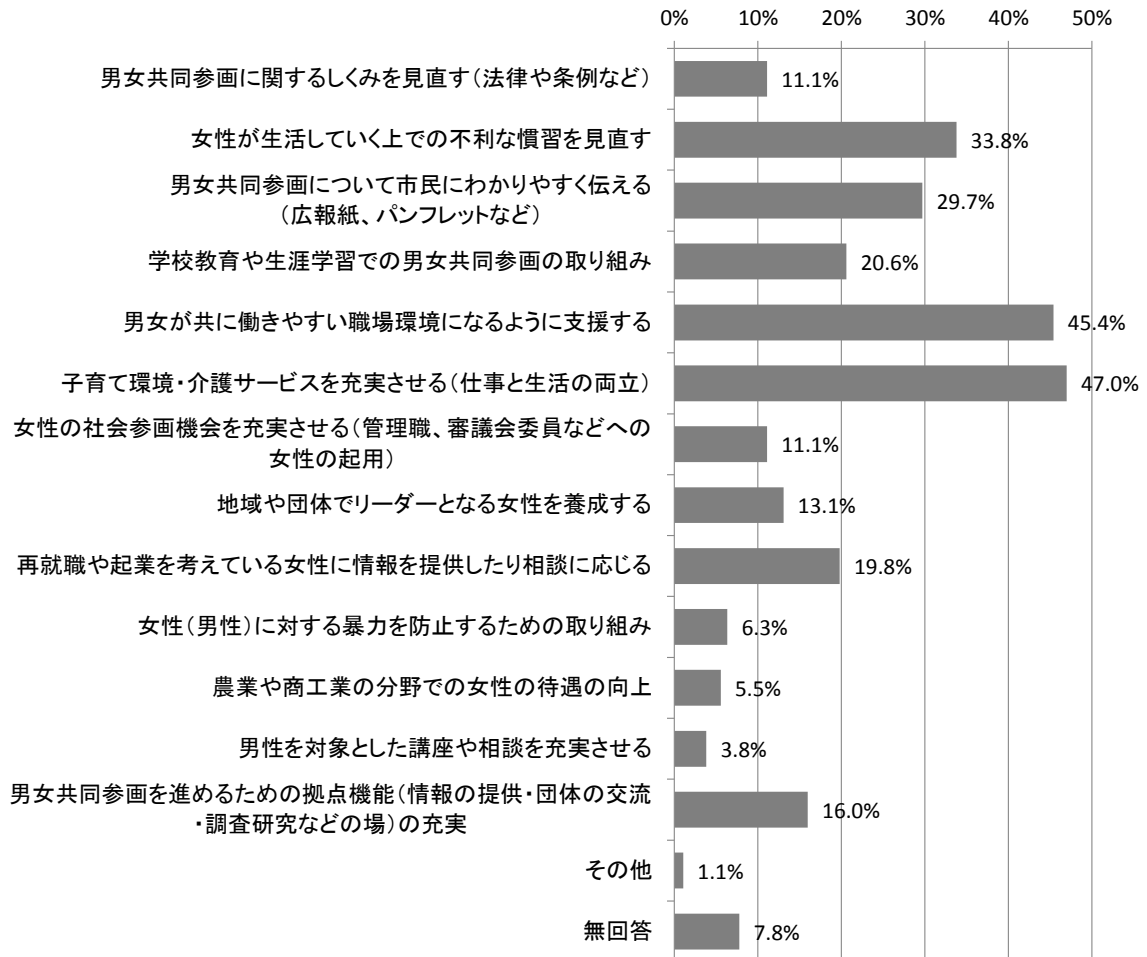
「国や地方の議員」が55.0%と最も高く、次いで、「町内会などの自治会役員」と「企業の管理職」が同じ割合の31.0%となっています。



項目	票数	構成比
国や地方の議員	417	55.0%
町内会などの自治会役員	235	31.0%
企業の管理職	235	31.0%
国際機関の職員	69	9.1%
建設業などの男性の多い職場の職員	59	7.8%
理工系分野の研究者	31	4.1%
医師や弁護士などの専門職員	131	17.3%
防災・復興の本部役員	105	13.9%
無回答	99	13.1%
回答者数	758	

問 20 今後、男女共同参画について、下妻市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中から重要だと思われるものを、3つまで選んでください。

「子育て環境・介護サービスを充実させる（仕事と生活の両立）」が47.0%と最も高く、次いで、「男女が共に働きやすい職場環境になるように支援する」が45.4%となっています。



項目	票数	構成比
男女共同参画に関するしくみを見直す(法律や条例など)	84	11.1%
女性が生活していく上での不利な慣習を見直す	256	33.8%
男女共同参画について市民にわかりやすく伝える(広報紙、パンフレットなど)	225	29.7%
学校教育や生涯学習での男女共同参画の取り組み	156	20.6%
男女が共に働きやすい職場環境になるように支援する	344	45.4%
子育て環境・介護サービスを充実させる(仕事と生活の両立)	356	47.0%
女性の社会参画機会を充実させる(管理職、審議会委員などへの女性の起用)	84	11.1%
地域や団体でリーダーとなる女性を養成する	99	13.1%
再就職や起業を考えている女性に情報を提供したり相談に応じる	150	19.8%
女性(男性)に対する暴力を防止するための取り組み	48	6.3%
農業や商工業の分野での女性の待遇の向上	42	5.5%
男性を対象とした講座や相談を充実させる	29	3.8%
男女共同参画を進めるための拠点機能(情報の提供・団体の交流・調査研究などの場)の充実	121	16.0%
その他	8	1.1%
無回答	59	7.8%
回答者数	758	

男女共同参画社会の実現に向けてのご意見・ご要望等（自由記述）

「男女共同参画社会の実現に向けて、今、何が必要だと思いますか。ご意見・ご要望・まちづくりのアイデアなどありましたら自由にご記入ください。また、市へのご意見・ご要望がありましたらお聞かせください。

- 男女平等などでは、皆理解しており、むしろ男性を強くする（精神的体力的）事が急務であり、社会や家庭を引っ張っていく人間を育てていくことと思う。【70代以上・男性】
- 1日市内に散歩が楽しめる様な施設（ベンチ、雨避け）を設け、案内板などでポイントの説明などを折り込んで、単独でも利用できる様、整備を望みます。【60代・男性】
- アンケートに答えて、色々考えることができました。ありがとうございました。私は、子育てをして仕事をしています。そこで、子供への支援をもっとしてほしいです。土日に未就学児の遊び場があるといいなあと思っています。平日のみピヨピヨ教室があるので、一度も参加したことがありません。仕事をしていると、ママ友がなかなか作れず、時々さみしくなることがあります。市全体に、目に見えて分かるように「こんなことが変わりました」とか「こんなこともやってみました」etc 分かり易く伝えてほしいと思います。例えば「土日にも未就学児が遊べる遊び場を作ってみました」とか。毎年同じではなく、色々変化があってもいいと思います。【30代・女性】
- 女性が育児、介護等をするうえで、仕事をしたいと思う人が負担を少しでも軽減でき、仕事ができる環境が地域ごとに充実できれば！
これからも高齢化社会を迎えるにあたって、老人が社会とのかかわりをもてる・参加できるスペース（環境も含めて）が充実されると、認知症を少しでも減少できる気がします。私も60を過ぎて、仕事を含め社会とのかかわりに参加しないといけないと少々思っています。
【60代・男性】
- 男は子供を産めないが、子育てには協力できる。男と女が完全に平等ということは無いと思う。人として、高めあえる社会になるようにと思います。【60代・男性】
- 声のみ、男女平等というのは聞きあきしています。家族や職場、学校等でえたりするように、助け合いが出来る教育を小さいながらしていくことが必要です。うわべだけの企画は是非やめてください。税金の無駄使いになります。アンケートをして満足しないでいただきたい。きちんと生かしてください。【60代・女性】
- まずは生活の安定を願います。女性が安心して働ける社会・職場をつくること、理想はやはり、夫が働き妻が家を守り、育児に専念することが出来る社会です。【70代以上・女性】
- 今後30年を考えた行政をお願いします。それには全体の人口が70%位と考えます（少子化）。これの改善を基本と考えた時に、人口増をさせるための政策であり、この事が男女の平等、ひいては日本の将来が見えてくると思います。【60代・男性】

- 下妻市の保育料が高すぎる。収入に応じて料金は変わるが、高くてパート位ぐらいたと保育料で収入も消えてしまうとっていた。子供が生まれたら、三人目を産んだら税金を出したり、もっと子供がいる家庭に支援してもらいたい。保育園も入りたくても入れない家庭が多すぎる。下妻の市役所の職員に態度が悪い人が多い。知り合いでも、下妻の市役所職員の悪口をよく聞きます。言い方がきつかったり、不親切だったり、良い方はすごく良いのね、一部の方の態度で下妻市役所の品格が下がってしまっているのはとても残念だと思います。あと、消防点検の巡回が家のまわりをグルグル大きな音でうるさすぎる。子供が、消防車が来ると怖くて毎回泣いている。民家の中に入ってこないでほしい。すごく迷惑です。ですが、下妻市も色々なショッピングするところも多く、遊ぶところも多いし、今以上に住みやすい市をつくらうと頑張ってくれているのは、すごくありがたいです。これからも大変だとは思いますが、下妻市が大好きなので、より良い市をつくってもらいたいです。【20代・女性】
- 砂沼サンビーチプールの有効な活用をもっと積極的に利用した方が良いのではないのでしょうか。夏だけ集中的な使用だけではもったいないと思います。例えば、安易かもしれませんが（スケート場とか魚釣りとか）何かのイベントに貸し出したりとか。【60代・女性】
- 市民が使う建物を作る時、砂沼付近、ビアスパークまわりなど、なるべくまとまった所にした方が良くと思う。ビアスパークの野菜売り場など、奥の方で役立たずに思う。もっと入口あたりの目につくところにしたら、売り上げももっと上がるし、買い物をする人達も新鮮な食材をもとめられると思います。砂沼という自然ないい所があるにもかかわらず、人の呼び込みが出来ないところが、とても残念に思います。【70代以上・女性】
- 男女平等、男女共同参画社会は色々考えて良いと思いますが、現在社会は結婚できない人が多いような気がします。結婚とは大切な事と思ってもらえる様な考えを進めることが第一だと思います。結婚に関心を持ってもらえなかったら、部落も空き家が多くなり、大変な事になると思います。真剣に取り組むべきだと思います。以上を書いて感じました。今回のアンケートは、女性が働きやすい様、結婚しても大丈夫な事に感じ、私の書いた事は、これからの事を考えての調査だと書いてから気が付きました。すみませんでした。こんごとも宜しく願いいたします。【70代以上・男性】
- 物事を決める為の話し合いは、男女同数で行う（現状、男性が多い中での話し合いでは女性の考えが十分に反映出来ないと思うから）夜間でも一人であるいても安全なまちづくりを目指してほしいです。【50代・女性】
- 市の部課長の30%を女性ができるように、長期的な登用計画の作成。副市長への女性登用。【60代・男性】
- 市の管理職の登用・育成に努める事。自治会等、地域の役職に女性を積極的に採用し、女性は参加しやすくすること。【60代・男性】
- 子育ての母親のパート、アルバイトの終業時間の賃金（時給）が安い、その仕事は、結構正社員の人達よりもきついことが多く、正社員はもっと自覚をもって働いてほしいです。パート・アルバイトにまかせきりで雑談したりして、見て見ぬふりをして、仕事をおしつける。言いたいことも言えない。本当に迷惑。楽しい職場で働くことを希望しています。【70代以上・女性】
- 賃金UP。労働時間の見直し。有給休暇の取りやすさ。【年齢・性別無回答】

- 多くの市民の意見を聞くことによって、もっと住みやすい下妻市になると思います。高齢者も、住んで良かったと思えるように便利にしてください。全市内に福祉バスなどの運行を希望します。一人暮らしの高齢者が買い物に行けないで困っている人がいます。今後はますます高齢者が多くなりますので、市の中心部だけ便利にするのではなく、市のすみずみまでを考えてくだされば、近隣の市町よりも下妻市はとって住みよい市になると思います。そして、男女共同参画社会にも、徐々になっていくのではないのでしょうか。【70代・以上女性】
- 前河原地区に住んでいますが、地区の多くの人が養豚場の悪臭に悩んでいると思います。市役所での指導はできないのですか。とくに豚ふん（肥料）を作っている施設がひどいです。是非、調査指導等をお願いします。【60代・男性】
- 長時間かかると思います。あれもこれもと曖昧に広げるよりも、1つ2つと数をすくなくし、確実にできるところから始めることが大事だと思います。【60代・女性】
- 家庭の仕事や手伝いなど、仕事で遅くまでやっている男性には手伝いなど出来ないのが現状なのではないか。私は、仕事を定時で上がり、親子3世代同居ですから、自分自身が家庭内の調整役になるので、妻の家庭内のこと、家族内のことなど、私自身でもできるだけ協力している。男性がもっと仕事以外のこと、家のことをするような気持ちがないと、イベントなどの企画をしても興味のある人の一部の参加になってしまう。いかにして、男性が家庭内の仕事を手伝うことをすることが基本的なことと考える。本人の気持ちを引き出していくかが重要と考える。【40代・男性】
- 「男だから」「女だから」という考えは時代遅れです。女のひとでも優秀な人は沢山います。性別にとらわれず、人としての評価をされるような環境になってほしいですね。【30代・女性】
- 男性の育児休暇を取りやすい環境にしてもらいたい。保育園の特徴も無くし、女性が社会へ早く復帰出来る社会になってほしい。特に、医療、福祉では、介護士・看護師が不足しており、潜在看護師の復帰がのぞまれている。【40代・女性】
- 性差を意識するのではなく、人間としての特性・個性が活かせるような市になればよい。古い考えを正そうとするのは非常に難しいので、小さいうちから、人間は平等であることを教えていく場を設ける。【50代・女性】
- 高齢者はなぜか邪魔者ですね。最終的には誰も同じ高齢者になるのに。【60代・女性】
- ただ教養があるだけでなく、人格に優れた人に育ててほしい。まちづくりは、インターネットをフルに活用してイベントなどを盛り上げたり広く発信する。【60代・女性】
- 女性の雇用を安定させる。【20代・女性】
- 女性の身体の仕組み、思考、行動力などに対する更なる理解。下妻市といえば〇〇という、市の核になる何かをアピールしてほしいです。【60代・男性】
- 家庭の理解が必要と思う。【70代以上・男性】

- 日本は昔から男尊女卑社会構造で推移してきており、一朝一夕では改善出来ないと思います。どこから直していけば改善できるとは思いません。国民1人1人が男女の平等、男女共同参画社会の実現の意識を持つことが大切であり、そして実行していくことです。下妻市としての取り組みも当然ですが、国全体としての指導が不可欠であろうと感じます。日本は、先進国だと自負していますが、この問題では、後進国であろうと思っています。一日も早く改善改良されることを願っています。【70代以上・男性】
- シモンちゃんが人気なので、いつでも誰でも買えるシモンちゃんグッズを増やし、下妻駅や道の駅や特設サイト通販で売ってほしい。せっかくいいキャラで、出せば売れそうなのにもったいない。つくば市がクリエイター支援で有名なので、下妻市もひとつの分野の支援を特化して打ち出していくのはどうでしょうか？ロリータで町おこしをしていたが、市の方が乗り気ではなく、支援を受けられなかったと知人が嘆いていました。ある程度のチャンス、支援、後押しは市からしてあげてもよかったですのではないのでしょうか。町おこしする側の実績がないと難しいかもしれませんが、支援がないと何もできず、町おこし自体ができないのであれば、1度チャンスを与えて、実績を見て、というやり方もいいのでは？年1団体限定で。ロリータの聖地下妻プロジェクト委員会が解散したのが、心底残念です。もっとロリータで町おこしをする下妻が見たかった。イベントに参加していきたくかった。シモンちゃんとキティちゃんのコラボグッズを増やしてほしい。販売店を増やしてほしい。ネット通販してほしい。【30代・女性】
- 男女の平等を数量的に示して実現しようとする事には反対。例えば、「女性の議員を何%にする。女性の管理職を何人にする」これらは、適材適所の視点とは矛盾するとおもわれるから。【60代・男性】
- 子育てには手厚い支援が必要。仕事と介護の両立は出来ない。女性ばかりが介護に携わっている現状を少しでも軽減出来るような環境を整えること。【70代以上・男性】
- まだまだ女性だから…ということが多いと思う。女性市長にという人を今からリストアップし、女性市長を目指してみても？市のトップから変わっていけば、市民もおのずと変わるのでは？【50代・男性】
- 1人1人の仕事量が増えていて子育て中でも平等に仕事を分けられているのが現状、何をやっても男女が平等に働くことは難しいと思う。なぜ、男女が平等でなければいけないのか？とかんがえてしまうこともある。女性の管理職を増やすとアピールする自治体や企業があるが、その女性はとてもツライと思う。（子育て、家庭を持っている女性であれば）男女平等参画により、「ワークライフバランス」を支援し、だれもが働きやすい職場環境を整える対策をもとめたいです。アンケートの内容が難しすぎる気がします。【40代・女性】
- 66歳になっている私達から見ると、現在は十分に女性が社会で活躍できる環境が整いつつあると思います。東京都という都会でさえ、女性都知事はそれまでの知事たちの何倍もの能力と実行力を持たないと同じ立場に慣れないのですから、地方ではなおさら大変な努力が必要でしょう。時代に合った人は必ず出てくれるものといえますから、これからの若い方々の頑張りに協力を惜しみません。私自身、現在は自宅で母を介護していますが、介護保険のお蔭で息抜きも出来るし、親孝行できていると制度に感謝しています。夫も忙しくしている私を見て、手伝ってくれもしています（年金生活ですので）地域の温かい目もかかっています。すべて周囲のお蔭で暮らせていると感謝しています。【60代・女

性】

○とても住みやすく、いい街なのですが、駅前が少しさみしいように感じます。【20代・女性】

○何年も前から、男女平等など取り上げられていますが、実際には、家事も育児も女性がするのが当然という考えは残っています。核家族では、男女・父母が話し合わなければ、共働きの際、成立しないと思います。同居となると、義父母の協力がある分、夫は動かずとも、生活が成り立ってしまうのです。また、義父母にある根強い家事・育児は女性がすべきもの…という考えが邪魔をして、夫婦で話し合ってもうまくいかないものです。どこか、女性はしごと・育児・家事すべてをやらなければいけないのだとあきらめている部分が大きいです。難しいですね。まずは、自分たちの意識改革をしなければいけないのかもしれないかもしれませんね。家族で参加できるイベントなど企画してもらえたら嬉しいです。

【40代・女性】

○車の運転が出来ない人に対して、市で無料タクシーチケットなどを検討していただきたい。前回のばす（巡回バス）はどうになりましたか？小さなバスなどで運行してはどうか？

【50代・女性】

○市議会議員が4～5名少なくとも良いのではと思うのと、議員個人がどのような活動をしているのかわかりづらいところがあると思う。自然を残したままの道路とか、整備とか便利さだけでなく自然環境を整えて住みやすい下妻市を作してほしい。下妻市自身の市の整備とか施設など、よその市にはない独自の施設は出来ないものでしょうか。【60代・男性】

○社会での男女平等はもちろん、賃金や労働条件の差別もなくし、子育てや、産後の職場環境のあり方など、各企業等が努力すべきことが山ほどあります。いくら言葉や課題で取り上げても、市民1人1人がそのことに目を向けないと実現は難しいと思いますし、市民全体が1丸となる様な平等な下妻市になってほしいと思います。【40代・男性】

○人それぞれの考え方があると思います。夫婦別性の問題は、主に女性を差別している制度だと常々思っています。また、女の子、一人っ子の跡継ぎ問題、女性の家の姓がなくなってしまうというのは、本当に悲しいことだと思います。割り切っている方がほとんどかもしれませんが、割り切れていない方も多いと思います。子供の姓については、何人かいる場合は、自由に選べるという制度にしないと、また、女性の家の姓がなくなってしまうということがおこってしまいます。【年齢・性別無回答】

○砂沼サンビーチをフルシーズン使える様なことはできないでしょうか？【70代以上・男性】

○女性が活躍できる社会にする為には、家族の理解と協力、また、施設の充実と企業の努力が必要と考えています。また、男女平等については、年配の方の意識の改革が必要なのではないかと思います。まちづくりにおいては、車の運転が出来ない（高齢者など）人の為に、市内を循環するバスなどがあると、家族の負担も減るし、高齢者が外出する機会も増えるのではないかと思います。【30代・女性】

○若い世代（30代・40代）の男性は子育てに参加・協力されている姿が多く見られます。1番大変な世代ではありますが、この世代がまちづくりのアイデアを発信して、議会・町内会・商工会などで活躍されたら、明るい未来がみえると思う。その為に、老年世代は、手の空いた時間を若い人達の手伝いに参加する（子供達を預かる。準備に協力する。若い人のアイデアを実践につなげていく）。そんな世代間の協力、相互理解で下妻の明るいまちづくりはできないでしょうか？更には、地域の農業を盛り上げ、教育を充実させて実りある下妻市を望みます。

【60代・男性】

○井戸端会議的な雑談会。あまり記録を取らずに意見を聞ける様な会合、どの町内も老人が増え、町内旅行もなくなり、3分の1が老人。この老人（私も）、若い人達の為に役に立てないか。昔のいじわるじいさん・ばあさんは教育の手助けをしていた（役割があった）が、今は町内の子どもすら知らない。また、役員によっては、広報をポストに入れるだけ、集金（赤い羽根）の時だけ顔を合わす。悪いといっているのではない…。小さな助け合いが町内になり、街になり、市に働きかける様な取り組みがあったら、参加したいが自分でつくるべき？ 小心者より。上町安藤好信 **【60代・男性】**

○市への要望一市役所・病院・買い物に車はかかせません。しかし、誰もが運転できるわけでもなく、他人、家族に頼めない時もあります。有料でタクシーはちょっときつい。市で利用できるタクシーを希望したい。他市で実施しているようなので、本市でも…。若い人でも利用したい人はいるかもしれない。バスが運行されるようだが、全域をカバーするのは難しいと思うのだけれど。 **【50代・男性】**

○男女の平等、男女共同参画社会の実現に向けての具体的な実例等の映画があったりすると現実の生活や考え方に影響して、見直すきっかけとなったり、考え直したりすることができるのではないかと思います。 **【70代以上・男性】**

○保育園の待機児童をなくすよう、さらに努力をしてほしい。一時預かりも希望通りに預けられず、仕事に不安をかかえ復職し、その間給料も下がり、不利だった。さらに子供が出来ても、預ける場所があるか不安。 **【30代・女性】**

○世代の変化もあり、今では随分と男性たちが優しくなっております。2世代生活をして感じました。今の男性は、優しくてうらやましいと思う時があり、私たちの頃とは大きな変化だ（時には意気地がないと感じる）と感心してしまいます。これからは、良くなるのではないのでしょうか。 **【70代以上・女性】**

○この市民意識調査とは異なることですが、私の名前を言って今度下妻の〇〇という場所に老人ホームが出来るので、あなたの名義を貸してくれませんか？ というような電話がありました。私は下妻に70年住んでいますが、そんな土地の名前はありませんよ、お宅の電話番号を教えてくださいと言いましたら、その後は電話はありませんでした。そのあとすぐに警察へ連絡いたしました。今は家にいるのは高齢者の留守番が多いので、気を付けなければならないと思いました。家でも子供夫婦と孫2人も会社勤めなので、私が自分の為ぞと思い、体を動かし、自分の車でいけるところは行き、1日家事等でいっぱいです。そして地域の人達と、私の出来ること等は、お互いに助け合っています。高齢者でも人助けが出来るかと頑張っています。

【70代以上・女性】

○独居老人への見守りや買い物・通院等の足となるバスの運行等があると良い。 **【50代・女性】**

○昔ながらの考え方、習慣の見直し、安定した雇用。 **【20代・男性】**

○市・企業・公共機関での経営者・管理職の一定割合を女性と義務づけること。若い女性に市に住んでもらわないと、少子化が進むので、女性の就業機会の確保・子育て支援。 **【30代・男性】**

○保育者が不足しているので、女性だけでなく、男性も保育者になりやすい環境づくり。

【10代・女性】

○離婚していますが、障がい者の子どもの親権は私がもっています。施設に入所しているのですが、(別の市)、子供の書類が必要で市役所に行った時、委任状が必要と言われ、用紙をいただいて帰りました。しかし、障害児なので自分で書くことが出来ず、次の日に電話で聞いたら、代筆で大丈夫とのことでしたが、押印が必要とのことで、施設で押印してもらって、市役所で書類をもらうことが出来ました。最初に市役所に行った時に聞けば良かったのですが、子供が入所している市では、障がい者と分かれば委任状が無くても確認書類があれば(確認できれば)書類がもらえます。下妻市役所もそうなってくれればと思います。実際、その書類をいただくまでに、2回足を運んでいますし、仕事も2回時間を頂いているので、手間ははぶければと思います。(何度も仕事を休んで、会社もいい顔をしなと思うので) 【40代・男性】

○私立幼稚園が定員割れしているにも関わらず、統廃合を行わないうえ、私立の幼稚園や保育園の満3歳児クラスは入園しにくい状況とのこと。女性の社会参加に向けてといっても働きにくいと思う。小さい子供を遊ばせる場所の樹木の手入れや、夏場熱い時にも外で活動できるような場所があると良いと思います。(プール以外) 【30代・女性】

○男女の立場を対等とし、性別に縛られず、1人1人の個性と能力が発揮でき、あらゆる分野で互いに意見を出し合い、喜びや責任を分かち合う社会「女らしく」「男らしく」ではなく「自分らしく」「人間らしく」生きること。今の現実、学校教育の場では「男女平等」、職場では「男性優遇」。しかし、学校でも「女の子らしく」「男の子らしく」と言われている。親の価値観でも「女はこうあるべき」「男はこうあるべき」などと子供の行動や考え方を制限している。そういう価値観の押し付けが男女を対等な立場ではなくしてしまっているのでは?職場においては、「これは女性向きの仕事」「これは男性向きの仕事」と性別で判断しており、女性は出産すると、どうしても職場から離れなくてはならなくなるが、その後も仕事を続けたいと思っても、育休も男性が1年も取れることはなく、やはり、女性が育休休業というのが一般的である。こういう一般的な事をやはり強制的に男性も取得しなければならないような法律を作らなければ、男性が育休・介休を取るのは無理なのではないか。男女共同参画社会の実現を進めるため、参画すべき女性の数や比率を定め、これを強制する割当制などの強力な措置を採用して、女性の参画を促すべきではないか。女性の登用の目標や、自主的なガイドラインの作成、女性に対する研修機会の提供など…。(これ自体が女性は差別されているってことかな?)社会全体が「男はこうあるべき」「女はこうあるべき」という考えがなくなる限り難しいのでは。

【50代・女性】

○市長、市議の政務官を公表すべきだと思います。年金だけでは食べていけません。医療費、介護費等々年々上がっていくのはいかなものかと思います。税金も公務員の手当もそうです。例えば、昨年の水害・夜中でも休日でも出勤すれば公務員は手当が出ますよね。あの状態で一般のサラリーマンは手当出ませんよ。ボランティアですよ。 【50代・女性】

○市民目線でこれからも頑張ってください。 【50代・女性】

○自分でできるものはやるようにする。男女の意識をなるべくなくすように心がける。地域で協力しあって、住みよいまちづくりになればと思います。 【50代・女性】

○女性は子を産むという男性にはない特性があり、足かせにもなっている。また、社会全体にもまだ封建制の風習がある。これを打破するには、問2に表現されていることを確実に実施することを考える。

【70代以上・男性】

○男女平等というのは難しいと思います。男性の方は、体張っているので、男性に頑張ってもらえればと思います。**【30代・女性】**

○保育士不足が深刻です。改善できる点（例えば賃金等）を検討していただき、待機児童解消に繋がってくださると良いと思います。**【50代・女性】**

○子供を安心して預かってくれる場所がもっとほしいです。仕事に行きやすい、働きやすいような市にしてください。女性は子どもがいると、働ける場所がとても少ないと感じます。もっと女性に優しい制度を作ってください。**【20代・女性】**

○子育て中ですが、待機児童を解決してほしい。毎年、学童に入る為に定員の心配をしている。来年は兄弟一緒に学童へ入所できるかわからない。下校を考えると、長時間働くことができなくなる。学童をふやしてほしいです。**【30代・女性】**

○女性の弱い立場につけこみやすくいやがらせを受けることがあるので、すぐ相談できる場所があるといいと思います。そして、女性の相談者を設けて、いざ困った時にすぐ相談に乗ってくれる人がいると安心です。**【50代・女性】**

○このアンケート自体が、男性が女性を差別する文章になっている。体力の差、性による差、他などをかんがえていないアンケートでは？**【60代・男性】**

○下妻市の事業がどのようにどこまで進んでいるのか、予算はいくらかかっているのかが分からない。下水道、砂沼、二高周囲の新事業等。**【50代・女性】**

○男性であっても女性であっても、能力のある者を優先すべき。**【20代・男性】**

○男女平等は社会的には広まってきているが、実際には職場、地域においても女性だからということで一歩下がった立場に置かれている。若い世代には男女の差はお互いに無いように見られます。家庭生活においても男性の参加を進めるうえで、学校教育はもちろん、社会人になってからも男女共同参画に対する情報発信をし、学んで、まずは明るい家庭生活の中から実現し、社会全体が住みよくなることと思います。**【70代以上・女性】**

○各種団体の代表や役員が多く選ばれるよう。**【70代以上・女性】**

○砂沼球場を隣接している太陽光設備を設置する以前のように市内の高校野球が使用できるようにしてほしい。もしくは、移転する。今のままでは硬式野球が出来ない。**【40代・男性】**

○男女が平等に働く環境を作ったとしても、家事・育児・介護の問題がある。晩婚化、少子化の問題も。（結婚し子供が欲しいと思っても難しいことも）。生活全体の充実を考えると、労働におけるこれまでの価値を見直し、休日を増やして気持ちのゆとりが持てることの方が大切。もしくは、労働時間の軽減、賃金アップ。**【30代・女性】**

○いわゆる老害をなくしていくことが必要だと思います。**【30代・女性】**

- 私は、基本的に男性が働き、女性が家を守るということが大切だと思っています。女の人が働きたいと思う気持ちが少子化にもつながっているのでは？女性が働かなくてもよい十分な収入を男性にあたえられることが1番良いのでは？全員が働きバチになってしまっっては成り立たないような気がします。家を守っている女性の優遇を考えてくれればうれしいです。そういう意味での男女共同参画をすすめてください。【40代・女性】
- 今から約 25,6 年前に近隣の市から下妻に引っ越して来て、最初にした事は地域活動において男尊女卑でした。何でも男が1番女は番外。今でも名残はあります。【70代以上・女性】
- 医師の質の向上。質が良くなく、つくば市や他の市での受診になってしまう。屋内の遊び場がほしいです。はいはいする乳児から小学生くらいを対象にした、雨の日や暑い日、寒い日などでも遊べる広い場所がほしいです。有料でも1人2時間500円以下でしたら利用しやすいです。【30代・女性】
- 男女平等！！と言ってもあまり意識しすぎるのも良くないと思う。どんなに頑張ってもできないこともあると思う。男女という言葉が女男となる日は来るのだろうか？？？【50代・女性】
- 女性が平等じゃない事が多いとは思いますが、男性が休みを取りづらかったり参加しづらい事もあると思います。まずは、男性が女性と同じように休めたり、活動できる場所があると良いと思う。市のイベントなど、男性や女性など、様々な立場の人が集まって作れるものがあると良いです。【30代・女性】
- 高齢男性の意識改革が遅れているように思いますが、これがなかなか難しい。世界から見ると日本はそうとう遅れていると見られているようです。しかし、日本人である私はそれほどではないと思っています。今69歳の私はこの意識改革は自分的には変わったと思っています。【60代・男性】
- 今子育ての真ただ中の方々の意見を反映させていただきたいと思います。具体的な意見ではなくて申し訳ありません。子どもを育てやすい社会＝男女共同参画社会だと思います。そんな下妻市になってほしいと切に願います。【50代・女性】
- 私は現在年金生活です。現在仕事をなされている方にアンケートされた方が良いと思います。【70代以上・女性】
- 学校や体育館の設備をもっと充実してほしい。【30代・女性】
- 老人には難しい質問でした。小さい頃から男の人を立ててきましたからね。でも今はかなり平等になっていると思います。市への要望は最近筑西市と桜川市へつくばのバスが乗り入れるようですね。下妻市へもそうしていただけたら助かりますね。【70代以上・女性】
- 特に子育て介護の分野において、まだまだ女性がやって当たり前というような慣習が根強く、そこを改めるのはかなり時間がかかると思われるので、せめて、子育てや介護のために離職しなければならないような状況を改善するための施策を考えていただきたい。【50代・女性】
- 老人のため全部はわかりません。申し訳ありません。【70代以上・女性】

- 下妻市には仕事の間が少ない。【60代・男性】
- 女性の社会進出が増えてきたため、みんなが男女平等に対する意識をより一層高めるべきだと思います。そのために、女性が抱える不安や負担を、男性が子育てを手伝ったり、家事を分担することで、軽減させることが大切だと思います。また、悩みを打ち明けられるような環境づくりをすることも大切だと思います。【10代・男性】
- 警察官の皆様へ。取り締まりの強化を、特に交通をお願いいたします。【70代以上・男性】
- テレビ、雑誌、インターネット、映画等とにかくあらゆる情報が女性を軽んじる表現が世の中に蔓延している。（特に性描写）社会風潮を改善しない限り、男女平等社会の実現は非常に難しいと思います。※メディアが政治、教育等をまじめに語る一方で「表現の自由」を盾に過激な性風俗を助長させている。【50代・男性】
- 税金を安くしてほしい。【40代・男性】
- 一人一人の努力で明るい下妻になりますように。【70代以上・女性】
- 男性に於いても育児や家事を積極的に協力していくことが必要だと思います。また、職場では育休や介護休暇など取りやすい環境作りも大切です。【70代以上・男性】
- 男女の平等、男女共同参画社会を保障する確固とした法律制度。【10代・女性】
- 温泉の近辺に、もっと他県から沢山の人を呼べる施設をつくる。砂沼のへら鮎、釣り道具メーカーが協賛してくれる様な全国大会にして、多くの釣りファンを集め下妻の知名度をあげる。B級グルメ等で商店街協力のもと下妻独自の食品開発をして知名度をあげる。【60代・男性】
- 〈市への意見〉生まれてから現在に至るまで、大学の1人暮らしを除いてずっと下妻住み。子どもが生まれてから、市のイベントに参加する機会も増えたが、いつも感じるのはPRがへたなこと。下妻は目立ってコレ！というところはないが、色んな事がとってもいいバランスをとれている“市”思っている。毎回イベントで田舎くささと閉塞感を感じる。（決して田舎と馬鹿にしているのではなく）せっかくこんなに素敵な市をもっと市外の人たちにもアピールするべく、まずは行ってみたいと思わせるようなPRに力を入れてほしい。周辺で最近のものでいうのなら、結城市の「結市」。印刷物全般のクオリティーの高さ、パッと目を引くわくわく感があります。町全体を挙げてという雰囲気も伝わり、1度まじめに視察に行かれてはと。もちろんPR倒れでは来年につながらないので企画の内容が大事。市のイベントに市外から遊びに来る友人親類等も「下妻っていいところだね」と言ってもらえて誇りにおもいますが、もっと上手に下妻の良さが出せばなーとぼやぼや思っていたので、表面的な感じで書かせてもらいました。市長さんにももっと頑張ってもらいたい。一種のキャラ扱いされるくらいにいるのかいないのかわからない。【40代・女性】
- 入札制度は1つの企業だけが入札しているようにも見えます。もっと幅広い企業にも入札できるような制度をつくってもらいたい。若い人たちが入札できるような制度はできないのでしょうか。民間の企業から仕事をもらうことは難しいから、市役所で入札出来やすいようにする制度にできないものか。若い人たちに仕事を与えることによって市の政治に積極的に参加してくれるのではないかな。いろんな市の行事に協力的になるのではないかな。【70代以上・男性】

○体育館を使用する場合（総合体育館）65歳以上は無料にしてほしい。少しの年金のため。十人十色で同じような訳にはいかないのです。【40代・女性】

○自分が働いている会社で考えると、男女平等でないことがある意味良いと思います。上の役職になると、長時間の残業、休日出勤が当たり前。残業代もつかない。偉くならないほうが良いとしか思えません。また、男女平等のようなことで、産休育休を取得できることは良いことだと思いますが、その間の人員補充はないため、その人の分の仕事は残った人間に回ってくるだけです。どんなに制度が整っても会社自体が考え方を変えないと何も伴わないと思います。男女参画等を進めるには、個々の企業の実態まで考えないと逆に働く人がつらくなる気がします。【40代・女性】

○子どもがいる場合夫婦で夜遅くまで働いて家に帰ってくることはできない。一般的には夫が夜 19～21 時になっての帰宅が多いだろうから、妻が仕事を早めに終わらせて 17 時には家事をやるようにし、子供を迎えにあげられるのが理想。そのためには 8～15 時の仕事を用意できるといいと思う。パートなら手続き可能だろうが、社会進出を要求し、配偶者控除をなくすということをいうのなら、このような時間帯で雇える会社を増やすべきだろう。難しいだけにやれた自治体は評価されるでしょう。【40代・男性】

○私たち夫婦は共に 80 歳を過ぎている高齢者です。現在は孫たちも成人して社会に出ております。この様な大切な調査は中年家族に送付し、現在の社会的にも、職場的にも重要な存在の方たちに依頼し、調査してください。【70代以上・男性】

○男女平等や男女共同参画社会の実現のためには、何かひとつふたつの政策を実行したからといって、すぐに結果が出るものではありませんが、実行可能な取り組みから始めていただき、少しでも効果が出たものについては継続してもらいたいと考えます。（効果がえられなければとりやめて、他の方法に変えればよいと思います。）市に住み続けられることができるように、出産、育児、教育、就労、医療、介護等々、何かの時に相談できるように、今後も集約や広報に力を入れてほしいと考えます。【40代・女性】

○保育士や介護士の仕事をしている人の給料等の見直しをしてほしいです。このままだと、仕事をする人がいなくなってしまうと思います。是非、かんがえてほしい。【20代・女性】

○私の友人は、職場では上司から特定に悪口を言われて続けるのが苦で、仕事をやめました。男女関係なく、明るい職場づくり、誰もが安心して業務を行える職場づくりが必要だと思います。と言いたいところですが、みんながそのような社会というのを築きあげるのは難しいかもしれません。みんな人間ですから、それぞれ思うことも違って当たり前だと思います。私たちが生まれてきた意味はなんでしょう。幸せになる為、誰かを喜ばせる為、色々あるでしょう。人がたくさんいるように考え方も一つではないと思います。私は、平成 27 年の春就職いたしました。きっと、普通の社会とは少し変わっているのかもしれませんが。大手ではありません。中小企業特有なののでしょうか。私の職場はみんなが、朝の 7:30～8:00 までそうじをし、8:00～8:30 の間に朝礼を行います。それを 1 年続けてきて思うことがあります。「そうじ」「朝礼」「ありがとう」「後始末」「笑顔」「継続」これで人生は変わります。自分の考え方が変わると、行動が変わります。そして運命や人生も、つまり特別なことはないのです。素直に、心あたたく生きる事が大切だと思います。（人を変えることはできません。自分がかわるのです）長くなりましたが、最後まで目を通していただき感謝いたします。これからも下妻市を宜しくおねがいたします。【20代・女性】

○私が生きてきた中で今は、国の取り組み等が子育て世代の人たちにとっても良い感じ。子供服は安く、自分たちの若い時より守られている感じがする。あらたまって叫ばなくてもそのようになっている。むしろ昔に戻さないと取り返しのつかないことになりそうだ。少子高齢化等、男が独身で結婚しない女もそうだ。男女共同参画は子づくりのみで十分である。そんな金が有るのなら違う方に回して、意識改革若い男女は結婚をして子どもを育てる。子どもを増やせば景気も良くなる。空き家もなくなる。生きていけば年代事に色々体験し、やる気のある人は男でも女でも男女共同参画など言わなくてもそれなりになっていく。生きていくうえで経済が一番大事でお金のほしい人は職場がどうのこのよりうまく対応していくと思う。【60代・男性】

○若い人たちが下妻の町が大好きといえるような町にしてほしい。働ける場所づくり、大学など（住みやすい町に）。今は、核家族、子供たちははなれていき、やがて1人に、寂しいものです。独居老人になります。私も含めてですが、お年寄りに優しい町づくりをお願いしたいです。調査票、他1通は、ご近所の方をお願いしました。【60代・女性】

○男女平等に関して。時代が変わったとはいえ、下妻エリアは古くからの農村部。昔からのしきたりが良くも悪くも残る地域。古い考えと思われてしまいますが、私は普遍的な思考（女性が持ち合わせている母性、家事、育児を担う責務）を持っています。女性が生まれながらにして持ち合わせている母性＝家族への愛情を信じています。男女平等や、男女共同参画社会実現に対しての理解が不足しているかもしれませんが、結果としてそれぞれの家庭で幸福が実現されるなら、平等や共同参画の形に拘る必要性をかんじません。あやふやな言い方ですが、日本が持っている幸福感（思考として何となく刷り込まれてきた）家族を大切にする思いが大切だと感じます。（人それぞれですが）近年、新聞・報道で見聞きする女性に対しての現状（DVを含め事件的なもの）は、男尊女卑の考えからくる差別的な思いというよりは、個人的な価値観（性癖）から起きていると私は考えています。極論ですが、近年の日本は、特に経済において「弱肉強食」の図式が鮮明となり、そんな中、男達は四苦八苦している。そんな厳しい現実の中で、女性、子供たちがストレスのはけ口や餌食になっている。そんな印象をもちます。行政に対しての要望は、男女平等や男女共同参画活動に関して啓蒙活動の推進、教育の場を積極的に設けていただき、次世代への種まきを行っていただきたいと思います。下妻市がこの課題に対して本気で取り組むならば、一般的に見られる既存のやり方に捉われず、下妻らしさが見えるものであったら良いと思います。【40代・男性】

○問 20 の③の市の取り組みに期待します。【60代・女性】

○現実には男性職場において多忙な毎日をおくっていると思います。まずは職場のゆとりを持ち、有給を取りたくても取れない現状等あると思いますので、余裕のある社会から生まれることと思います。女性でも、能力がありながら、家庭にいて働きだすのが億劫になり、そのままいるとか、何かきっかけを作る（募集をまめに行うとか）と良いかと思います。まちづくりのアイデアとしまして、もっと大きなイベントで下妻市に他県からも集まるようなことが出来たらよいと考えますが？例えば、ツアーバスが来たりするほど有名になるお花畑、芋ほり、果実狩り、ご当地グルメなど。【60代・女性】

○市民よりも行政の方々の意識はいかがですか？【60代・男性】

○女性に結婚を促す風潮をやめて、個人のスキルを上げる雰囲気づくりをしていった方が良い。日本人の女性に足りないのは自立心。男性に養ってもらおうという考え方があるから、男女の立ち位置に差がでる。【20代・男性】

○高齢の男性になるほど、女性を下に見る傾向が強いように思います。難しいかもしれませんが、そのあたりから意識改革をしていかないと本当の男女平等にならないのかもしれませんが。

【40代・女性】

○男女の格差、差別等、小学校のころから教育カリキュラムの作成。【70代以上・女性】

○将来、車の運転が出来なくなった場合、核家族の今、足がなくなり、病院・買い物等すごく不安になります。市内を走るバス等はないのでしょうか。【60代・女性】

○女性だから、男性だからという性別に対する考えをなくしていくこと。【20代・女性】

○今の世の中は昔よりは「男だから」「女だから」というのが少なくなっていると思います。でも、もう少し平等に。「だから」というのが減ったらいいなと思います。その為に行政が決めごとを作ったり、呼びかけたりすることはもちろんですが、昔ながらのしきたりをどうにかしていくことを望みます。女だから料理くらいは、お茶出しは、お酌はって、お年を召した方は言います。それが気に入りません。お祭りでも男の人は少しみこしをかつぎ、たくさん食べてお酒を飲みます。女の方は、その食事を準備し片付けます。その役割は仕方ないですが、「早くしろ」とか「まだか」と言わなければ。それを言わずにおとなしく待って、「ありがとう」のひとことがほしいです。男の人が読んで気分が悪くなったらすみません。でも、家庭や地域のしきたりも少し変えた方が男女平等も進むと思います。それだけでなく、男の人の生活力も上がって必ず役に立ちます。もし、奥様に先立たれた時、生活力がなかったら大変ですから。読んでくださってありがとうございます。【10代・女性】

○再就職を女性に提供したり、相談に応じること。【70代以上・男性】

○男女平等を掲げる昨今ですが、その平等とは…に少し歪みを感じる時があります。男子はだめだけど、女子ならゆるくなるみたいなの…。以前、子供が同級生の女の子達数人にちょっかいを出され、逃げたら追いかけてきて、しつこいので払ったら、逆につきとばされて少し段になっている所の角に下腹部をぶつけて帰ってきたことがありました。結構なアザになっていたのですが、先生は詳しく聞きもせず、お互い様みたいな感じで終わらせたみたいですが、ちょっとずれたら急所（男子）にぶつけていたかもしれません。もし、逆に、男子が女子にやったとなったら大騒動になったのではないかと思います。平等も大切なことだと、必要なことだと思っていますが、女性らしさ、男性らしさというものを忘れずに持ってもらいたいと思っています。【40代・女性】

○地域での固定的な慣習・しきたりを改める様な呼びかけを広報誌等で伝えていただきたいと思います。

【50代・女性】

○弱者にやさしい政治を希望します。【70代以上・男性】

○市というか、企業での問題だと思うので改善は難しいかと思います。もう少し、男性の仕事を短くしたり、休みやすい環境になってくれたらいいなと思います。普段、夫の仕事が朝から夜遅くまでなので、子供たちに全くあうこともなく、休みの日しか子供たちと関わることができないのはとても残念です。そして、簡単に休むことが出来ないのです。どうしても何かあるとママが休むしかなく、ママはいつまでたっても正社員で働くことが出来なくて困っています。男性も女性も夕方ごろには仕事を終えて、家族みんな、夜は団らんして過ごせるような日がきてくれたらなあと思っています。【20

代・女性】

○男女の性の違い、肉体の違い、成長する過程の違い等々、自覚をした上で、それぞれの役割なども踏まえ、お互いに考えていかなければならない、男女もそれぞれ性格も違うはずです。それも無視して共同参画という言葉を一方向的に押し付けてはいけません。それぞれに合った生き方も認めなくては行けないと考える。【60代・男性】

○大きい100店舗位の屋台村を作る。【年齢・性別無回答】

○男女差別のことで、世界で見た日本は101位のランキングだそうです。先進国とはいえ、まだまだ男性の方が強い国なんだと思われているのだと思いました。今すぐ、平等にならなくても、何年後には平等に近づきたいですね。そのためには、出産・育児、女性から誰もが生まれるのですから、その時期、数年、何やらの法律などを作ってもらい、公務員だけでなく、一般にも戻りやすく理解してもらいたいと思います。優秀な人材が、出産・育児で仕方なく辞めていると思う現状ですので、社会にとってマイナスな面が多いと思います。【50代・女性】

○男性と女性の間には格差があると今まで言われてきたが、最近ではその格差もなくなってきた。だが、完璧にはなくなっていない。だから、市とか県とかの規模ではなく、国ひとつの問題として、早急に解決すべきである。【10代・男性】

○男女平等は必要だと思います。あからさまな差別はいけないと思います。しかし、男性、女性に向いている職業があります。力仕事は男性、母性が必要な職業は女性の方が向いています。無理に男女平等を推奨するのではなく、男女ともに理解しあうことが一番大切だと思います。【20代・男性】

○人口が増えるように。【30代・女性】

○性別に関するアンケートにたいするものにこんなことをすみませんが、人々の平等についての定義、それにともなった男女平等となるかと思いますが、人々の平等については市では、どの様な点に問題を感じていて、どの様な取り組みをしているのでしょうか。【40代・男性】

○男女または、夫婦の職業、家事、育児、個人生活についての意識改革が必要。夫は収入、妻は家庭といった慣習の見直しが必要。パンフレットやセミナー等による意識改革の実施。すべての企業等で男女平等が徹底されているわけではないと思うが、女性を数採用する企業はある。夫婦で仕事をやり、夫婦で家事をすると、不満は減少すると思う。よって、女性が就業しやすい環境を整備する必要がある。介護士や保育士は、女性に多く所有者はいるが、労働時間や給与面で離職してしまう状況であるため、早急に改善が必要である。【20代・男性】

○女性の社会進出と子を持った女性が働ける職場の理解が大切だと思う。女性は、子を授かったことで、仕事によっては辞めざるをえない状況もある。定時で帰れないことや、子を預かってくれる場が見つからないなど、様々な理由をかかえて悩んでいる人がたくさんいる気がする。看護師や保育士さんは大変な仕事であり、少ないのが現状である。少しでも優遇をしておかないと、働く人は増えていかず、今後の未来に悪影響を及ぼしていくのではないかと考える。待機児童問題や、高齢社会問題に対して、看護師や保育士は重要な位置を示していくのではないかと強く思った。【20代・女性】

○人口減少の現在は、年齢を問わず男女を問わず、活力ある人材の活動の場の創設に力を入れる。（有償、無償いずれも）社会に活気をもたらすと思われます。【70代以上・女性】

○男女の平等、共同参画社会の実現はとても難しいことだと思います。生まれてから育った環境の違いもありますし、男性にしかできないこともあります。上手に調和させていけたらいいのでは…。子育てしながらの仕事は、とても大変です。もう少し、子育て支援の充実をお願いしたいです。また、介護支援の面でもお願いしたいです。【40代・女性】

○意見BOXの設置。【20代男性】

○男女平等とはいえ、まだまだ育児や家事は女性が主であると思います。余裕のある子育てをするためには、男女ともに休暇を取りやすくしたり、子供が小さくて働けない時期は、子供手当の金額をもっと高くするなどの社会の配慮が必要だと思います。高齢者の医療費負担も軽減すべきだと思います。介護をしている方々は、国や地方自治体が考える以上に大変です。

【40代・女性】